

浪能クラン・ドロマン

第25回公演 上演台本（第一稿）

(La Ville de passion – Le Chant des oiseaux)

激情都市

—— Song of Birds ——

作 脚 本
演 出

安部 枕流 + 浦部 喜行
安部 枕流
浦部 喜行

登場人物

嶋（マチからマチへとさすらう男）

家鴨《あひる》（段ボール・ハウスの老婆）

カゲリ（シヨウワの女主人。腕は立つ）

イッペイ（カゲリの右腕の男。苗字は「ひかる」）

店主（平成堂薬局店主にして、ヘイセイの相談役）

店員（薬局の従業員。ときに店主をコケにする）

富山の薬売り（またの名を暁アキラ。神出鬼没のヒーロー）

ひばり（なぜか富山の薬売りにつきまとう歌のうまい娘）

サチコ（シヨウワの姉）

イチロウ（シヨウワの弟）

母ちゃん（ヘイセイの母親代表）

婆ちゃん（ヘイセイのお祖母ちゃん代表）

嬢ちゃん（ヘイセイの子供代表）

通りすがりの正義の味方（毎年おなじみ）

エコロジーさん（今年限定）

スギ（復讐のため、山からやってくる。本名スギウラ）

ヒノキ（右に同じ。本名ヒノキダニ）

他

幕前 ■ 霧の街角

霧深い街角。上下《かみしも》から段ボールをかぶった人々の群が現われる。よく見ると、段ボールには「スナック オ・ルボワール」とか「ラウンジ 胡蝶」とか描かれており、居並ぶ様はどこかの繁華街にも公園の野宿者タウンにも見える。

ト、男が花道を現れる。薄汚れた白いジャケットに、泥だらけの白い綿パンツ。ふらつく足もとを踏みしめながら舞台にたどりつくとき、なにやら眩きながら段ボールのあいだをすり抜けようとする。

だが、ふらつく躰は段ボールにぶつかりつづけ、そのたび、段ボールから声とする。

段ボール1 おあいにくさま……
段ボール2 ビールはないよ……
段ボール3 こんどにしとくれ……
段ボール4 仕事でもくれるのかい……
段ボール5 ちよいと、乱暴はよしとくれ……
段ボール6 不景気なツラだねえ……

などなど。

男
店から店へさまよいあるいていた。カラスならば餌にもありつけただろうが、ぼくは
その日、ぼくは早朝の都会で餌をあさるカラスよろしく、繁華街の路地裏を、

餌にはありつけなかった。だいたい、ぼくが探していたのは、餌なんかじゃなかったし、そもそも、ほんとうになにかを探していたのかすら、ぼくにはわかっていなかった……

ト、ひとつの段ボールが通せんぼする。

男が右へゆけば、段ボールも右へ。男が左なら、段ボールも左。

男　ちよつと、すいません、通してもらえませんか……

それでもやっぱり、男が右へゆけば、段ボールも右へ。男が左なら、段ボールも左。

男　いくら人生に迷ってるってつたて、道を進めなくていいってわけじゃないんですから……

にもかゝわらず、男が右へゆけば、段ボールも右へ。男が左なら、段ボールも左。

男　いゝかげんにしてください……！

強引にすり抜けようとして、段ボールにぶつかる。

ト、段ボールから、キャツと声がする。

男　なんと、意外や意外、段ボールからうら若き女性の声……

蹲《うづくま》ってしまう段ボール。

男
あ、すみません、どっかお怪我は――

男、周章てゝ、段ボールを脱がす。

ト、現われたのは、意外や意外、ド派手な衣裳の老婆。

老婆
ボンソワール、お兄さん……

男
えーっ……！！

老婆
なに驚いてんのさ……

男
いえ、ちよつと……

老婆
ちよつと、なに……？

男
いえ、なんでも（去ろうとする）……

老婆
だって、あんた、人ん家《ち》ノックしたろ……？

男
いや、たゞ、ちよつと肩がふれただけで……

老婆
だって、段ボールを脱がせたじゃないか……

男
えーと、それは、あの……

老婆
そんな積極的に迫っておいて……

男
その、もしかして、お怪我をなすつたんではないかと……

老婆
ほら、心配してくれましたから……

男
ぶつかってしまいましたから……

老婆
ノックじゃないのかい……？

男
男はあ、ぼくはただの通りすがりでして……

老婆 通りすがりが、なんの用だね……？

男 だから、用があつたんじゃないやなくて、ぼくの進むべき方向に、たまたまあな

たの段ボールが存在しまして……

老婆 進むべき方向？ あんたにそんなものがあんのかい……？

男 それは、お婆さん、初対面の人間にイササカ失礼ではありませんか……

老婆 初対面の女性つかまえて「婆さん」呼ばわりするのは失礼じゃないってのか

い……？

男 あ、いや、その、それはもう、大変イカンに……

老婆 「遺憾」で、漢字で書いてみな……

男 えっと、こうかいて、こうかいて……

老婆 ホラみな、書けもしないことば、つかうんじゃないよ……

男 そんなこというなら、ちよつとうかがいますが、天下の往来に家こさえて住

んでんのはかかなものかと……

老婆 家だつて……？

男 さつき、そういつたでしょ……

老婆 へえ……

男 トボけないでくださいよ……

老婆 たかが段ボールじゃないか……

男 たかが段ボールでも、人が住んでりや、れつきとした住居です！ どうせテ

レビだつて見てるんでしょ、そんでもつて受信料不払いなんでしょ、(ト、段ボール

を点検すると、衛星放送のアンテナが描いてある) あーっ、BSまで見てるじゃない

ですかッ……！

老婆 韓国ドラマのファンなんだよ……！

男 ほら、れつきとした住居が天下の往来に存在したら、そりや不法占拠でしょ

う……………!

老婆　いいんだよ、人が通つたらどくんだから……

男　だって、ぼくんときにはどかなかつたじゃないですか……

老婆　そりゃあ、あんたが、あたしに用があつたからだろ……

男　生憎と、段ボール・ハウスでBS楽しんでる有閑マダムに、用なんかありま

せん……………

老婆　そりゃ、あんたが、気づいてないだけさ……

男　え……………?

老婆　だいたい、ここは往来つたつて、公園のなかだよ……

男　あ……………

老婆　通るとこなんて、他にたくさんあるじゃないか……

男　いつのまに、こんなとこに……

老婆　だから、あたしに用があつたんだろ……?

男　全然……

老婆　うそ……

男　ほんと……

老婆　またまた……

男　急いでるんですよ、通してください……

老婆　おっと、街中をふらふらさまよい歩いてるヤツの、どこに急ぎの用があるつ

てんだい……………?

男　あるんですよ……

老婆　どんな……………?

男　えーと……

老婆　えーと……………?

嶋 どうせ、ガアガアうるさいからでしょ……

家鴨 こうみえても、いずれは美々しい白鳥になるかもしれないだからね……

嶋 いや、いゝとこ、ポロポロな駝鳥くらいかと……

家鴨 失敬なヤツだね……

嶋 すいません……

家鴨 『青い鳥』の話は知ってるかい……？

嶋 メーテルリンクですか、じつは青い鳥は家にいたっていう……

家鴨 まあ、妖精に云われて、青い鳥を探しに出たけど、見つけれずにもどって

みたら、じつは家で飼ってた鳩が青くなつて、それで隣の女の子の病気がなおって、しかもその鳥は逃げちゃつたって話さ……

嶋 それが……？

家鴨 あたしも昔、鳥を飼ってた、それはそれはたいそうお気に入りだったのだけど、そいつは青い鳥じゃなくて、黒い鳥だったのさ……

ト、二人の背後に立ち並ぶ段ボールたち。

段ボールたち

女は鳥を飼っていた。黒檀のように黒い鳥。たいそう可愛がつて

いた。けれど、デートにでかけたある夜、男といつしよにもどつてみると、鳥籠はからっぽになっていた。取り乱した女は、男が止めるのもきかず、夜の街へと駆けだした。女は街角から街角へ、夜の闇の中を、三日三晩、黒い鳥を探してさまよった。そのあいだに、男はあきれて去っていった。それでも女は探しつづけた。ヒールは折れ、幾度もころんで傷だらけになりながら、けれどもついに、黒い鳥は見つからなかった。

四日目の朝、悄然と帰宅した女がドアをあけると、黒い鳥の鳴き声があった。驚いて鳥籠に眼をやると、そこには黒い鳥の影があった。女は、おおよろこびで鳥籠に駆けよ

つた。だが、そこにあつたのは、黒い鳥の形をした暗闇だった……

家鴨 暗闇……？

家鴨 あゝ、そいつは「闇」だった……

家鴨 黒い鳥だから暗闇になったってんですか、莫迦々々しい……

家鴨 いゝや、そいつはもともと鳥なんかじゃなくって、鳥の形をした黒い闇だったのさ……

家鴨 え……？

家鴨 ずっと気づいてなかっただけなんだよ……

家鴨 なにをです……？

家鴨 ほんとは、家の鳥が青い鳥だったって……

家鴨 それは別の話では……

家鴨 長い旅が必要なのさ……

家鴨 どういうことですか……？

家鴨 あんたは黒い鳥、いや、鳥の形をした「闇」なんだから……

家鴨 なにいつてんです……！

家鴨 だって、あんたの躰は真っ黒じゃないか……！

家鴨 この衣裳のどこが黒いんですか……！
ほら、足元をごらん……！

途端に、家鴨の躰からまばゆいばかりの光がさす。

思わず顔をそむける嶋。その足元には、黒い鳥の影が浮かび上がっている。

嶋 あッ、これは……

家鴨 さあ、わかったろう、あんたに缺けていたものが、あんたの見失っていたものが……！

嶋 どういうことですか……？

家鴨 さあ、翼をひろげるんだ、黒い鳥よ、そうして渡っておいで、七つの海、過去と未来の街々を……！

ト、吹き抜ける一陣の突風。
その風に乗る、白い鳥のように駆け去る家鴨。

嶋 家鴨さん、待ってください！ツ、家鴨さん……！！

嶋、家鴨を追おうとするが、吹きとばされた段ボールたちに囲まれ、風とともに吹きさらされてゆく。

第1幕 ■ 風の街角

幕が開くと、そこは古びた地下水道。ときおり風が吹きぬける。

下手に屋台のようなものがあり、「燈火や」という看板を掲げている。屋台のまえを、鼻唄なんぞを歌いながら、イツペイが掃除している。

イツペイ ほんま、どこもかしこも不景気で、かなわんなあ（以下、最近の不満についてひとくさり）。お、もうこんな時間かいな、ほな、ちよつくら上の世界へ出張つてこよか……

横穴に去るイッペイ。

ト、上手から、灯りがちらちらと人の気配。やがて箱を担いだ男が現われる。なにやら幟《のぼり》も立っていて、そこには「越中富山 萬金丹」の文字。すなわち、これぞ、日本国中を股にかけて置き薬をとどけてまわる家庭薬配置販売従事者、越中富山の薬売りだ。

薬売り

えー、くすりー、越中富山の薬でござーい、えー、くすりー、越中富山の薬でござーい、つて、どうみたつて、薬を置いてこうにも、そんな家が見あたらねえよなあ……お、こりや、お店だね……もしもーし、だれかいらつしやいますかあ……？

「燈火や」を一周するが、だれもない。

薬売り

いやあ、しかし、見れば見るほど巨きな土管のなかだねえ、こゝは。おっと、ネズミが出やしないかっておもうと、ぞつとしねえや……頼むから出ねえでくれよ、ネズ公先生……

途端に、チューという鳴き声。悲鳴をあげて卒倒する富山の薬売り。ト、またも上手から、灯りが近づいてきて、現われたのはひばり。ぶつたおれてる薬売りに、おそるおそる近づく。

ひばり

ちよつと……

揺さぶるが、起きない薬売り。

ひばり
おっちゃん……

やっぱり起きない薬売り。ひばりは思案の末、薬売りの薬箱をあちこち探して、気付け薬を見つけたすと、薬売りに嗅がせる。
気がつく薬売り。

薬売り
あ……

ひばり
もう、どないしたん……？

薬売り
いや、前歯の大きな先生が、いきなり足下でチュウと鳴きやがったもんでよ

……

ひばり
なんや、おっちゃん、ネズミ怖いんかいな……

薬売り
いやあ、子供のころに鼻先を嚙られてから、どうにも苦手で……

ひばり
おっちゃん薬屋さんやろ……

薬売り
いかにも私は越中富山の薬売り……

ひばり
ほな、ネコイラズとかもってへんのかいな……？

薬売り
石見銀山か？ 生憎と、そんな物騒なのはもっちゃいないね……

ひばり
薬屋さんなのに……？

薬売り
こちらら、人間様を助けるのが本務なんだ、下水道の齧歯類《ゲツシルイ》

ひばり
まで営業項目に入れちゃいねえ……

薬売り
なるほど……

ひばり
そっちこそ、こんな街で、なにやってんだい……？

薬売り
アイドル——
アイドルうッ……？

ひばり みならい……

薬売り テヘツ、参ったねこりや、（ひばりをジロジロ見て）ふうん、アイドルみな

ひばり らいねえ……世間は広いなあ……

薬売り オラッ、なめとつたら承知せーへんど、ワレツ……！

ひばり 穩便に穩便に……

薬売り こんど CanCam の読者モデルにノミネートされました、夢はもえちゃんや蝦

ひばり ちゃんみたいなモデルさんになることです……

薬売り CanCam だったら、やつぱ山田優ちゃんじゃないの……？

ひばり ウソです、ほんまは歌手志望……

薬売り で、お嬢さん、お名前は……？

ひばり ひばりって云います……

薬売り ひばりッ……？

ひばり うん……

薬売り まさか、お嬢……！

途端に流れます「川の流れのように」のイントロ。

ひばり、かの大歌手の如く歌いだす、とみせて歌わない。プツンと切れるイントロ。ずっこける薬売り。

薬売り なんだ、歌わねえのかよ……

ひばり だって、うちの歌やないもん……

薬売り まあいゝや、こんな暗いところに長居は不用心、早く家へ帰んな……

ひばり えー……

薬売り 「えー」じゃないの、こっちも忙しい身なんだから……

薬売り　あ、この野郎……
ひばり　だいたい、さつき助けたった恩を忘れたんやないやろね……？
薬売り　むう……
ひばり　アイドルみならいを助手にできたんやから、喜ばんと……
薬売り　（突如、なにかの気配をキャッチ）ハッ……
ひばり　どないしたん……？
薬売り　どこかで、だれかゞピンチに陥っている……！
ひばり　出番や……
薬売り　ゆくぞ、ひばりッ……！
ひばり　ホイきた合点承知之助……！
薬売り　いくつだよ、おまえ……！

下手に駆け去る二人。

入れ替わるように一陣の突風。やにわに、上手から、段ボールにしがみついたまゝの嶋が吹きとばされてくる。ピンチなのは、じつにこの嶋であつた。

嶋　　うわー……

屋台の下に吹きつけられて、ぐったりする嶋。
ところへ、横穴から色々荷物を抱えて戻ってくるイツペイ。

イツペイ　よっこらしよっと、いやもう、不景気なうえに、ガソリンめちやめちや値上がりしとるし、ワヤやな……（嶋を見つけて）だれや、もう、こないなとこにボロ屑

棄てたん……うわつ、だれやツ……！

嶋 (起きあがり) こゝは……

嶋 イツペイ なんやおまえ、どっから来よった……？

嶋 ぼくは、あの人を追っかけようとして、段ボールに邪魔されて……

嶋 イツペイ こらこら、人が訊いとんねん、ちゃんと答えんかい……

嶋 イツペイ ですから、それが、答えようにも……

嶋 イツペイ わからんのかいな……？

嶋 イツペイ はい、突風に飛ばされて、気づけばこゝに……

嶋 イツペイ こゝの街のことは……？

嶋 イツペイ 街？ こゝ、街なんですか……？

嶋 イツペイ トボけとつたら承知せんぞ……

嶋 イツペイ いえ、とんでもない……

嶋 イツペイ おまえ、地上《うえ》から来たんやろ……？

嶋 イツペイ 上があるんですか……？

嶋 イツペイ いちいち引掛かるやっちゃな、こゝ、地下なんやから、上の世界があるに決まってるやないか……

嶋 イツペイ すいません、なにがなにやら、ぼくにはさっぱり……

嶋 イツペイ まさか、ほんまに知らんのか……？

嶋 イツペイ はあ……

嶋 イツペイ ウソ発見器にかけたるか……？

嶋 イツペイ 結構ですよ、天地神明に誓って、ウソなんかついてませんから……

嶋 イツペイ ちよっと痛いかもしれへんで……？

嶋 イツペイ え……

嶋 イツペイ それでもえゝんか……？

鳴 痛いのはイヤですけど、ウソつきと思われるよりマシですから……
イツペイ お、恰好えゝこと云うてくれるやんけ……

鳴 ぼくは真面目です……！

イツペイ ふーん、そこまで云うんやったら、ウソとちゃうやろ……

鳴 ありがとうございます……あの……

イツペイ なんやねん……

鳴 ほんとにあるんですか、ウソ発見器って……？

イツペイ ……

鳴 ……

イツペイ ホラホラ、用がないんやったら、とつとと帰ってくれ……

鳴 ないんですね……

イツペイ ウルサイわ、はよ帰れ……！

鳴 と云われましても、右も左も……

イツペイ 難儀なやつぢやな……

鳴 でも、拝見したところ、右と左しか道がないような、というか、こゝが大通

りのまんなかみたいな……

イツペイ まあ、街いうたかて、所詮は土管やからなあ……

鳴 土管ですか……？

イツペイ (荷物を下ろし、屋台の準備をしながら) むかーし、この辺一带に地下街作

るいうてやな、いろいろほじくりかえしたんやけど、ごっつい下水管理めたところで、

計画オシヤカになりよつた、こゝはそんなかや……

鳴 下水管……

イツペイ いっぺん埋めたもんを掘り起こすのんもカネかゝるいうて、結局ほつたらか

しゃ……

嶋 埋めたまゝ、忘れ去られた下水管ですか……

イツペイ いまでも、あちこちに地上と繋がってるところがあつて、せやから空気もある

嶋 わけやけど、なんの加減か、偶アに突風が吹き抜けよんねん……

嶋 はあ、そうですか……

イツペイ で、おまえ、どっち側から飛ばされてきた……

嶋 ですから、気がついたら、このまえだったもので……

イツペイ しゃあないなあ……

嶋 あ……

イツペイ どないした……？

嶋 右だったような……

イツペイ お、そうか……

嶋 左だったような……

イツペイ どっちやねんな……

嶋 いや、それはもう、ものすごい勢いでしたから……

イツペイ よっしゃ、ほな、飛ばされるまえの話を開こやないか……（ノートを取り出す）

嶋 まえですか……

イツペイ せや、どんなところにおったんや……？

嶋 霧ぶかい、段ボール・ハウスの立ち並ぶ都会の裏手でした……

イツペイ （ノートを出して、書き留めつゝ）ふむふむ……

嶋 そこでぼくは、ひとりの女の人の人にあいました、その人は、ぼくに、七つの海

を渡ってこいと云って去ったのです……

イツペイ ナ、ツノウミ、つと……

嶋 その人を追いかけてようとしたとたん……

イッペイ そないにピチピチやったんかいな……？
嶋 どっちかっていうと、ババアです……
イッペイ え、老け専……？
嶋 いや、そういうハナシじゃなくて……

ところへ、天井からロープがぶらさがり、荷物を背負った若い女が降りてくる。

若い女 どういうハナシだつて……？

イッペイ (荷物を受けとりながら) お疲れさまッス……

若い女 こいつは……？

イッペイ それが、戻ってきたら、店のまえに転がつとりまして……

嶋 その、すごい突風にまきこまれてしまいました、気がつけばここに……

イッペイ どうも、地上《うえ》のもんやないみたいですねんけどね……

若い女 名前は……？

嶋と云います……

若い女 あたしはカゲリ……

イッペイ おれ、イッペイ……

カゲリ 苗字は「ひかる」っていうんだけどね……

嶋 ひかるイッペイ……

イッペイ 親分、昔のハナシは無しでつせ……

カゲリ すまんすまん、そうだったな……

嶋 イッペイさんは、カゲリさんの子分なんですか……？

カゲリ ボディーガードみたいなものかな……

イツペイ これでも、昔は「ぴかいチ」って呼ばれたほどの腕ききや……
カゲリ 昔のハナシは無しじゃなかったのかい……
イツペイ おっと、さいでした……
嶋 カゲリさんたちは、このお店を……？
イツペイ おい、気安く声かけるんやないで……！
カゲリ あゝ、この店の主《あるじ》だよ……
嶋 女性実業家ですな……
イツペイ それどころやない、親分は、この街の主でもあるんやからな……
嶋 この街の……？
イツペイ あゝ、そうや、この「ショウワ」のな……
嶋 女性政治家だったんですか……
カゲリ そんな大層なもんじゃない、ちよつとした纏め役つてとこさ……
イツペイ そんなで、おれがその右腕つてわけや……
嶋 じゃあ、町長さんと助役さん……
イツペイ なんや、ごつつうコチンマリしよんな、その呼び方やと……
嶋 なら、組長と若頭……
イツペイ どつちかいうたら……
嶋 和田アキ子とデストロイヤー……
イツペイ 知らんがな、そない古いネタ……
嶋 しずかちゃんとのび太くん……
イツペイ あ、ある面、あたつてるかも……
嶋 花沢さんとカツオくん……
イツペイ それはイヤや……
カゲリ コラ、くだらないことに時間つかってんじゃないよ……

イツペイ　へへえ……

嶋　にしても、この街の人たちは、どうやって生活してるんですか……？

カゲリ　そりゃ、こいつでさ（ト、屋台を指す）……

嶋　トモシビヤ、って、いったい、なにをどういうふう……？

カゲリ　名前どおりじゃないか、灯火《ともしび》を売買してんだよ……

嶋　灯火って、蝋燭でも売ってんですか……？

イツペイ　なんちゆうソクブツテキな発想や、「燈火屋」やから「蝋燭」、ヒネリもな
んもあらへんやないか……

嶋　すいません……

イツペイ　ちよつとはヒネってみい……

嶋　じゃあ、タコ焼き……

カゲリ　タコ焼き……？

イツペイ　おれが関西弁やからって、アンチョコな推理とちやうやろな……？

嶋　『万葉集』の時代から、「ともしびの」は「明石」にかゝる枕詞でしたから、

ともしび↓明石↓明石焼き↓タコ焼き……

イツペイ　ヒネりすぎじゃ……！

嶋　すいません、すいません……

カゲリ　まあ、この街の事情を知らないんじゃ、ちよつと難しいだろうね……

イツペイ　おまえ、どうせ、どっから来たかもわからへんのやったら、この街に住んで、

おれらの仲間にならへんか、そしたら教えたるわ、この店の売りもん……

嶋　そんな、唐突に云われても……

イツペイ　じつは、おれら、地上《うえ》の連中と戦うてんのや……

嶋　え、戦争ですか……！

カゲリ　どっちかっていうと、ヤクザの喧嘩《でいり》みたいなもんかな……

嶋 充分戦争ですよ、それ……

イツペイ まあ、飛び道具はないんやけどな……

嶋 じゃあ、武器は……？

イツペイ 鉄パイプとかバールみたいなもんとか——

嶋 ゲバ棒とかですか、極左の内ゲバみたいですね……

イツペイ なんや、それ……？

嶋 七〇年安保を語らせると長くなりますよ……

イツペイ 語らんでえゝって……

嶋 ハッ、ということとは、「ともしび」というのは、もしや歌声喫茶……！！

イツペイ せやから、こゝは七〇年代新宿とちやうツ……！！

カゲリ 早い話が、戦争「ごっこ」さ……

嶋 まあ、サヴァイヴアル・ゲーム、いわゆる「サヴァ・ゲー」ってやつで
すね……

カゲリ まあ、そんなもんかな……

嶋 オークーオークー、そんなことなら、お安い御用ですよ……

イツペイ 調子のえゝやっちゃな……

嶋 で、なんなんですよ、こゝの売りもんって……？

カゲリ だから「灯火」だよ……

嶋 それじゃ、まんまですよ……

カゲリ 精神的なのと物質的なのと、両方のね……

嶋 それは……

カゲリ この街にないものといえは……？

嶋 電気……？

イツペイ 残念やったな、電気はあるで……

嶋 え、あるんですか……？

イツペイ ほらよ……（ト、屋台に電気を点してみせる）

カゲリ こゝが、建設途中の工事現場だったって話はきいたかい……？

嶋 はい……

カゲリ 地下の送電設備は、工事にも使うってんで、最初に完成してた、だから、大元のところをちよいといじってやりや、電気は取り放題ってわけさ……

嶋 それって、盗電ってやつじゃないですか……

イツペイ そうとも云うわな……

カゲリ この街中でつかう量なんて、たかがしれてるからね……

嶋 でも、電気じゃないとなると、あ、水ですね……！！

イツペイ いや、水もあんねん、ほら（下手奥を示し）あの辺、ごちやごちやつとした

嶋 管が這うてるやろ、あれ、上水道から引いてきたやつちゃ……

イツペイ じゃあ、水も盗水……

カゲリ そうとも云うわな……

嶋 ないだろ、「盗水」なんてことば……

カゲリ ならば答は……

嶋 答は電気と水と空気以外、全部さ……

カゲリ そうでしたか……

イツペイ まず食料がない、衣料もない、もちろん家電品も嗜好品もない……

嶋 ローションもファミマもない、ユニクロもコーナンもない……

イツペイ そりゃないでしょう……

嶋 スーパー玉出は——

イツペイ あるんですか……？

嶋 あってもいらん……

嶋 (ズッコケる) ……

カゲリ 電気はあっても、光はないんだ……

嶋 なるほど、「灯火」って、文字どおり、ランプとか電灯のことですね、でも、

それを売ってるんなら、みんなお金を持つてるってことですよ、いったい、どうやって稼いでるんですか、この街の人は……?

カゲリ ふん、なかなか頭が廻るようだね、じつは、この街の通貨は「電気」なの

さ……

嶋 電気が……? でも、どうやって……?

カゲリ (屋台から、黒いヴィデオ・ケースほどの大きさの箱を取りだし、嶋に放つ

てよこす) ほら……

嶋 (受けとって) これは……?

カゲリ 蓄電池だよ……

嶋 ……?

カゲリ この街の住人は、それぞれ、そいつに電気をためこむ、そいつをこゝへもつ

てきて、こゝじゃ手にはいらぬ品物と交換するってわけさ……

イツペイ そんなで、おれたちは、この蓄電池をよその街へもってって、契約してるとこ

に売って、その金で、いろいろ仕入れてきて、またこゝで売ると……

嶋 蓄電池なんかを買ってくるとこがあるんですか……?

カゲリ 正規に引いてる電気代よりぐっと安いからね、だいぶ節約になるらしい……

嶋 へえ、そんなシステムが……

イツペイ この親分が考えだしたんですよ、どや、アタマ切れるやろ……

嶋 たしかに、イツペイさんには思いつかなそうな……

イツペイ なんやと、ワレ……!

嶋 「物理的灯火」の方はわかりましたけど、じゃあ、「精神的」な灯火ってい

うのは……

カゲリ 「心のともしび」だよ……

嶋 コ、ロノトモシビ……？

イツペイ 「想い出」とも云うけどな……

嶋 まさか、この街の人々は、自分たちの想い出を売って……？

カゲリ 逆だよ……

嶋 じゃあ、想い出を買っていうんですか、でも、いったい、どうやって……？
イツペイ ほな見せたるわ、こいつらが想い出や……

ト、屋台からなにやら取りだして、板の上にはばらまく。それは、書籍の形をしている。

嶋

(ひとつを手にとって)なんだ、本じゃないですか、(中を開いて読む)「マ
チルドは、自分の前にある大理石の小さなテーブルにジュリヤンの首をのせ、その額
にキスをしていた」……なんだこりや、スタンダールの『赤と黒』じゃないですか……
…はーん、なるほど、「想い出」を売るなんて云って、じつは物語本を売ってたつ
てことですね……！

カゲリ そう見えるかい……

嶋 (聞いてない) 「想い出」を売る、なーんて小洒落たこと云って、イツペイ

さんてば、顔に似合わない……

イツペイ ヤカマシわッ……！

途端に、下手から、一陣の突風。
キッと上を見るカゲリ。

イッペイ 親分……

カゲリ ヤツらだね……

イッペイ (項突く) ……

カゲリ あんた……

嶋 はい……?

カゲリ 店番頼んだよ……

嶋 え……?

カゲリ そろそろ開店時間なんだけど、あたしや、ちよつと用事ができちまつてね……

嶋 ……
だからって、右も左もわかんないぼくに……

カゲリ イッペイがついてるよ……

嶋 いや、こんな人といっしょでも……

イッペイ だれがこんな人やと……

カゲリ とにかく、このショウワの街について、あそこまで事情を知ったんだ、帰す

わけにやいかないねえ……

嶋 だって、そつちが喋つたんじゃないですかッ……!

イッペイ 四の五の云わずに、この街の住人になつてもらうで……

嶋 じゅ、住人ッ……?

カゲリ 慣れりや、土籠《もぐら》の生活も快適なもんさ……

嶋 ですが、ぼくには……

カゲリ 帰る街なんてありやしない、そんなことはあんた自身がいちばんよく知つて

嶋 いる、ウソだと思ふんなら、胸に手を当て、よく聞いてみな……

嶋 それは……

カゲリ ほら、実際にやってごらんよ……

嶋 (恐るおそる、自分の胸に手を当て、耳を傾ける) ……

カゲリ さあ、なにが聞こえる……？

嶋 これは……

カゲリ それは……？

嶋 月も照らさぬ海峡を、行方も知らず吹きぬける、疾風怒濤の風の音《ね》だ

……！

再び、轟然たる風の音。

カゲリ あんた、「想い出」を持つてるかい……？

嶋 待ってくれ、想い出、ぼくの、過去……？

カゲリ あんたの胸のまんなかは、がんがらがんのガランドウ、代わりにあるのは

「闇」ばかり……

嶋 闇だって……？

カゲリ そうだよ、あんたもまた、「想い出《ともしび》」を棄ててきた人間なのさ

……

嶋 カゲリさんッ……！

カゲリ 頼んだよ……！ (ト、壁に穿たれた横穴のひとつに飛び込んで去る)

嶋 イッペイ へいっ……！

嶋 カゲリさんは……？

嶋 イッペイ なーに、心配無用や、小一時間もすりゃ戻ってきはる……

嶋 「ウエ」に行ったんですね……？

嶋 イッペイ (開店準備を始めつゝ) なんや、おまえも行きかけたんか？ やめとけや

めとけ、親分、あゝ見えて、無茶苦茶腕が立つんやから、シロウトがついてったかて、足手まといになるだけや、なにしろ、このおれでさえ……

嶋 イッペイさんでも……？

イッペイ おれな、前は「地上《うえ》」の人間やったんや、けど、ある日、親分と一戦交えて以来、親分の腕に惚れこんでな、まあ、云うたら、牛若丸と弁慶みたいなもん——おっと、この街じゃ、自分自身の昔話は無用やったな……

嶋 ……

イッペイ これでおまえも解ったやろ、この街のもんは、多かれ少なかれ、過去を棄て、きたヤツばかりなんや……

嶋 だから、他人の「想い出」を買うわけですな……

イッペイ そういうこつちや……

嶋 イッペイさん……？

イッペイ なんや……？

嶋 考えたんですけど……

イッペイ 「灯火《ともしび》」のことか……

嶋 はい……

イッペイ ……

嶋 あのう、この商売って、独禁法に引つ掛かりませんか……？

イッペイ そんなことかいッ、えゝねん、街の公的事業やねんからッ……！

嶋 はゝあ……

イッペイ しょうもないこと云うとらんと、さあ、客が来よつたで、商売々々……

上手から、男女が現れる。

女 あのうち……
イッペイ ほら、相手せんかい……
嶋 はい、売りですか、買いますか……？
イッペイ もっと、上品な言い方でけへんのかいな、えー、いらっしやいませ、お買い取りで、それとも、お買い上げで……？
女 あの、買っていたらよかったのですけど……
イッペイ ハイハイ、蓄電池でんな……
女 いえ……
イッペイ へ、ほな、なんでつか……？
女 （一冊の本を取りだし）これです……
イッペイ これって……
嶋 まさか、想い出《ともしび》……？
女 え……
イッペイ （嶋に）まあ、偶におんねん、売りにくるんも……
女 だめでしょうか……？
イッペイ いやいや、そんなことおまへん、買い取りまつせ、まあ、そのためには、中身を見してもらわなあきまへんけどな……
女 はい……
嶋 中身を見るって……？
イッペイ まあ、見てゝみいつて……

【想い出 その壺「サチコとイチロウ」】
あがた森魚「赤色エレジー」と共に、想い出の上演が始まる。

女

わたしの名前はサチコ、彼の名前はイチロウ、わたしは教師、彼は学生、ふたりは愛しあつておりました、けれども、わたしたちの愛が日陰に置かれつづければならなかったのは、わたしたちが古びた下宿の一室にいつしよに暮らしたせいでなく、わたしたちが姉と弟だったからなのです……

イチロウ

姉さん、ぼくは姉さんがいなけりや……

サチコ

だめよ、もうやめましょう、でないかとわたしたち……

イチロウ

ぼく、学校やめて働くよ、そうして、お金を貯めて、どこか遠い街へ行つて

しまおう、そうすれば……

サチコ

だめだつてば……

イチロウ

どうして、姉さんはぼくのことを嫌いな……

サチコ

だつて、わたしたち、姉弟《きょうだい》なのよ……

イチロウ

しようがないじゃないか、この気持ちには、偽りなんかじゃないんだから……

サチコ

今日ね、教頭先生が、お見合いの話をもってきたの……

イチロウ

姉さん、まさか……

サチコ

だつて……

イチロウ

(姉に武者振りつき) イヤだ、イヤだ、イヤだ……

サチコ

イチロウ……

イチロウ

姉さんといっしょになれないのなら、ぼくは、生きてたつてしようがないんだ……

サチコ

(泣きながら) もう、どうしようもないの、だつて、わたし、赤ちゃんが……

……

イチロウ

え……じゃあ……

サチコ

(項突いて) わたしたちの……

イチロウ

まさか、そのせいで……

サチコ お父さんが必要ですもの……
イチロウ ……
サチコ ね、わかつてちようだい……
イチロウ わからないよ……
サチコ イチロウ……
イチロウ どうして、ぼくがお父さんじゃいけないの……
サチコ それは……
イチロウ やっぱり、どっか遠くへゆこう……！
サチコ ……
イチロウ 姉さん……
サチコ わかったわ……
イチロウ ありがとう……
サチコ そうだわ、どうせだから、この想い出を売りはらってゆきましょう……
イチロウ 想い出を……？
サチコ そう、そうして、遠くの街で、一から出直すのよ……
イチロウ うん……
サチコ こうして、わたしたちは、永遠に煉獄で暮らすことを覚悟したのです……

曲終了。暗転。
すぐ、明転。

イッペイ やんや、やんや（拍手）……
嶋 無茶苦茶暗い話ですねえ……
イチロウ 結局、想像妊娠だったんですけどね……

イツペイ わあ、えゝかげんなオチやなあ……

サチコ いかゞでしょう……？

イツペイ (嶋に) おまえやつたら、なんぼで買う……？

嶋 いきなりそんなこと訊かれても……

イツペイ さあ……

嶋 (適当に指を出す) これくらい、かな……

イツペイ (驚愕の表情) ……！

嶋 あ、安すぎましたか、じゃ、これくらい……

サチコ (それを覗き込んで) あ、ありがとうございます……！ (やにわに、屋台の

中の食料を引つ掴む)

イツペイ あ、ちよつと待った……！

サチコ ほら、イチロウ、契約書……！

イチロウ はい…… (ト、紙切れ一枚取りだすと、嶋に握らせる)

サチコ・イチロウ ありがとうございます……！ (礼をして、駆け去る)

嶋 あ、こちらこそ……

イツペイ (嶋をぶん殴り) このドアホッ……！

嶋 痛いなあ、なにすんですか……

イツペイ おまえ、高こ買いすぎなんじゃッ……！

嶋 あ……

イツペイ あゝ、素人に値エつけさせたおれがアホやった……

嶋 まあまあ、人生、楽ありや苦もあるさ……

イツペイ じゃかあしッ……！

ところへ現れる、背広姿の人々。

イツペイ ほれほれ、またお客さんや……
タカハシ 想い出を買っていたゞきたいのですが……
イツペイ また買い取りかいな、まあえゝわ、どんなんか見せてもらいまひよか……

【想い出 その式「砦の上に我らの世界を」】

タカハシとツルタの会話。ふたり、椅子を出して、腰かける。

タカハシ もう十一時五十分か……

ツルタ あと十分ですな……

タカハシ われわれの街も、これで綺麗サツパリなくなるってわけだ……

ツルタ せめて、町名にして残してくれたってよさそうなもんですけどね……

タカハシ しかたないさ、合併相手が大きすぎるんだから……

ツルタ でも、タカハシさん、いくら早期退職募集があったからって、役所辞めてどうするんですか……

タカハシ まあな、三十三年奉職したんだからな、こゝらで一区切りあったって悪くないだろ……

ツルタ そりやそうですけど……

タカハシ 晴れて独身に戻ったしな……

ツルタ マンションも売っちゃったんでしよう……

タカハシ 独り身で、そんな大きなとこに住んでたって、掃除が面倒なだけだからな……

ツルタ …… 最近、そうやって、沖繩とかに引越す人が増えてるそうじゃないですか……

タカハシ

へえ……

ツルタ

タカハシさんは、まさか、その口じゃないですよ……

タカハシ

考えてもみなかったな……

ツルタ

全共闘世代に多いらしいそうですね……

タカハシ

真面目なんだよ、みんな……

ツルタ

今でも、あの頃のこと、懐かしんだりしないんですか……？

タカハシ

忘却の彼方さ……

ツルタ

そういえば、奥さん、同級生だったんでしょ……

タカハシ

そう、バリストの同志、けど、最近じゃ、ずっと生活防衛の砦を挟んで敵味

ツルタ

方だったな……

タカハシ

「砦の上に我らが世界、築き固めよ勇ましく」ってね……

ツルタ

なんですか、それ……

タカハシ

「ワルシヤワ労働歌」だよ、よく歌ったもんだ……

ツルタ

砦の上に我らが世界ですか……

タカハシ

まあ、あと五分でなくなっちゃうんだけどな、我らが砦も……

ツルタ

なんか、タカハシさんたちの気持ちがわかるような気がしますよ……

タカハシ

どういうことだ……？

ツルタ

全共闘は負けたわけでしょ、敗北の味ってやつですか……

タカハシ

(苦笑) こんなのんびりした敗北があつてたまるか……

ツルタ

へ、まあ、そうでした……

タカハシ

世代差つてのは恐ろしいねえ……

ツルタ

すいません……

タカハシ ……
ツルタ で、どうするんです、結局……？
タカハシ おれか？ おれはまあ……
ツルタ ……
タカハシ 歌でもうたうさ……

流れだす「ワルシヤワ労働歌」。

暗転。

明転すると、なにがしかを支払うイッペイ。礼を云って去るタカハシら。
ところへやってくる三人の主婦たち。

イッペイ まさか、また買い取りやないやろな……
ワシオ あら、ダメなんですか……？
イッペイ いや、かめへんけどな……

【想い出 その参「ゴミ袋」】

ワシオ ちょっと、ヒバリガオカさん、今日は、資源ゴミの日じゃありませんよ……
ヒバリガオカ あら、ごめんなさい、あたし、てっきり今日だと……
ワシオ ほらほら、ナカモズさん、今日は普通ゴミの日ですってば……
ナカモズ いゝじゃないの、どうせみんな焼却場で燃やしちゃうんやしよ……
ワシオ プラスチックは燃やすと高熱が出て、焼却炉がダメになっちゃうから、いっ
しよには燃やさないんだから……
ヒバリガオカ あら、ワシオさんてば、詳しいじゃない……

ナカモズ け、巷《ちまた》で流行のエコロ小母さんかよ……

ワシオ あら、ナカモズさん、小母さん嘗めんじやないわよ……！

ヒバリガオカ まあまあ、ワシオさん……

ワシオ そんなに嘗めたいんなら、嘗めさせてあげるわよ、汗かいて、シヨツパイんだから……！

ヒバリガオカ ほら、ナカモズさんも、ちよつと謝って……

ナカモズ (ぞんざいに頭を下げる)

ワシオ だいたいね、この黒いゴミ袋つてのがダメなんだから……

ヒバリガオカ そうよねえ、黒ってなんかマガマガしいじゃない、街のあちこちに黒いのがゴロゴロしてたら、ちよつと不気味よねえ……

ワシオ ヒバリガオカさん、ちがうのよ……

ナカモズ 透明ゴミ袋を使えつてんだろ……

ヒバリガオカ あら、そういう意味なの……？

ワシオ そうよ、この街じゃ、普通ゴミも資源ゴミもプラスチック・ゴミも、みんな

透明のゴミ袋使うことに決まってるんだから……

ヒバリガオカ えー、そうなの、知らなかったわ、あたしはてつきり、黒だと景

観を損ねるからかと……

ナカモズ 黒のどこがいけないっていうんだ、この世の汚れをすべて隠してくれる、絶

望と希望がないまぜになった美しい色じゃないか……！

ワシオ ナカモズさん、週末はゴスロリ・バンドのヴォーカルですごい恰好してるか

らつて、だれとでも美意識を共有できると思つたら大まちがいなんだからね……

ナカモズ あのゴミ袋の黒は、黒い闇の残滓だ……

ワシオ だから、ジャージ姿で耽美気取らないでよ……

ヒバリガオカ いやでも、あたしなんか、最近都会でカラスが多いのは、あのゴ

ミ袋から分裂したんじゃないかって思ったほどだもの……

ワシオ なにバカなこと云ってんのよ、ゴミ袋がカラスになるわけないでしょ……
ヒバリガオカ でも、黒い色がカラスを惹きつけてるのかも……

ワシオ まさか……

ナカモズ そうだな、カラスは眼がいゝから、むしろ、透明ゴミ袋の方が、カラスの関
心を惹きつける可能性は高いかもしれない……

ワシオ え、じゃあ、(透明ゴミ袋を示して) これ使った方が、カラスに荒らされや
すいっていろいろの……？

ナカモズ イエス……

ワシオ あゝ、ジーザズ……！

ヒバリガオカ なんて急に英語なのよ……

ワシオ いえ、ちよつとナカモズさんに影響されちゃって……

ヒバリガオカ でも、このまゝだとヤバイんでしょ……？

ワシオ といって、透明以外は使えないし……あ、ひらめいたわッ……

ヒバリガオカ どうすんのどうすんの……？

ワシオ 隣の団地のゴミ棄て場に棄てればいゝのよ……！

ヒバリガオカ・ナカモズ そっか……！

暗転。

明転すると、なにがしかを受け取って、去ってゆく主婦たち。

嶋 最後のやつって、想い出《ともしび》にはいるんですか……？

イツペイ ぎりぎり、アウトやな……

嶋 じゃあ、買っちゃ駄目じゃないですか……

イツペイ まあ、商売、ときにはサーヴィスっちゅうもんも必要や……

嶋 はあ……

イツペイ どや、初商売の感想は……

嶋 いやあ、難しいもんですね、やっぱり、この、商売人に必要なカケヒキとか、

全然できませんし……

イツペイ まあ、慣れんうちは、だれかてせやけどな……

嶋 なんか、こう、人の心のうちを読み取れるようなテレパシーとか機械とかで

あるといゝんですけどねえ……

途端に音楽。颯爽と現れる富山の薬売りといひばり。

イツペイ なにもんや……？

薬売り 東に病気の子供あれば、行つて薬を売つてやり、西に疲れた母あれば、行つて養命酒を売つてやり、南に死にそうな人あれば、行つて未認可薬を売つてやり、北

に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからドリンク剤を買えと云い、困った人のいるところ、たとえ火の中の水の中、どこへなりと参ります、正義の味方、夜明けのヒーロー、

暁アキラツ、朝の来ない夜はないツ……！

イツペイ なんや、ヒーローのパチモンかい……

薬売り パチモンとは失敬な……

イツペイ どこがヒーローやねん、どつから見たかて、越中富山の薬売りやないかい……

……

薬売り なぜそれをツ……？

イツペイ 書いてあるやろツ……！

嶋 富山の薬売り兼ヒーローが、なんの用ですか……？

薬売り あんた、いま、人の心のうちを読めればなあと思ったね……？

嶋 は、はあ……

薬売り そんなあなたに、これッ……

ひばり (携帯電話を取りだす)……

薬売り 「心を伝える器」と書いて、「心伝導器〈しんでんどうき〉」……！

ひばり わあ、オモシロイ……！

薬売り あのひと最近冷たいわ、彼女がどうも浮気してるんじゃないかなろうか、隣のガ

ミラス星人がなに云ってるかわかんない、とお悩みのあなた、これさえあれば、他人

さまの心のうちがすっぽんぽん……！

ひばり わあ、ベンリー……！

薬売り (ひばりから携帯を受けとり) 使い方も簡単、こうやって(携帯のお尻を嶋

嶋 の胸に当て)、こうやるだけ(電話をかける)……あ、もしもし……

薬売り わかるんですか……？

薬売り うわー、なんにも聞こえませーん……

薬売り なんじゃそりゃ……

薬売り つまり、あなたの心のなかはすっかんらんッ、なーにんも考えてませんねッ

……！

嶋 えー……

薬売り やっぱりパチモンや……

薬売り さ、これを(ト、嶋に押しつけ)、いまなら、なんと十割引……！

薬売り わあ、スッゴイ……！

薬売り じゃッ……！

引つ込む薬売りといひばり。

イツペイ なんやねん、あれ……？

嶋 この街の人じゃないんですか……？

イツペイ あないなケツタイなんに生まれてたまるかいな、どうせ、それかてパチモンやろ、ほらほら、そんなんほつといて、商売々々……

嶋 （心伝導器をしまいこみつゝ）あおう、この商売つて、儲ってるんですか……？

イツペイ さあな……

嶋 けど、独占企業だけあつて、儲けもずいぶんあるんでしょ……？

イツペイ まあな……

嶋 またまた、とぼけちゃつて、どうせ、地上《うえ》の連中が襲ってくるのだつて、このシノギを狙つてのことなんでしょ……？

イツペイ おまえ、そら、エンタテイメント小説の読み過ぎや……

途端に、駆け込むカゲリ。後から追っ手。

イツペイ 親分ツ……！

嶋 カゲリさんツ……！

両者の戦い、イツペイが加勢しようとするが、逸速《いちはや》く、カゲリは撃退してしまう。

イツペイ うーん、流石《さすが》は親分だ……

嶋 大丈夫ですか……？

カゲリ あゝ、だが、また来るぞ……
嶋 まだ……？

ト、現れるなんやねんマン。ひとくさり。

なんやねんマン さあ、寄越せ……

嶋 あんた、正義の味方じゃなかったんですか……？

なんやねんマン 正義の味方は、街ごとに存在する、さあ、この街を明け渡しても
らおうか（嶋に詰め寄る）……

嶋 ヒイツ、怖い、怖すぎるッ……！

ところへ、どこからか笑い声。颯爽と現れるエコロジーンさん（仮）。

エコロジーンさん オイツ、その変態野郎ッ……！

なんやねんマン なんやねん……？

エコロジーンさん 私は、地球の環境を守るため、昼夜を問わず昼寝して、北は川西
能勢口から南は日根野あたりまで、世界を股にかけて活躍するエコロジーンさんだッ……！

なんやねんマン くそう、ベタなヤツめ、受けてみる、正義の鉄槌……！

エコロジーンさん なんの、こっちこそ、浄化の一撃……！

戦う両者。

ついに勝利するエコロジーンさん。

なんやねんマン

憶えてろよッ……!! (退場)

エコロジーンさん

ハッハッハッ、思い知ったか、浄化のパワーを……

嶋

なんだかよく解りませんが、有り難うございます……

エコロジーンさん

ハッハッハッ、さあ、渡してもらおうか、この街を……

嶋

えーっ……

イツペイ

やっぱり敵やったか、このエコロ野郎め……

カゲリ

イツペイ、例のものを……!

イツペイ

ほいきた……!

エコロジーンさん

ハッハッハッ、矢でも鉄砲でも持ってきたさい、環境防衛の大義

名分の前には、なんぴとたりともかなうまい……!

矢と鉄砲を持つてくるカゲリとイツペイ。

エコロジーンさん

ハッハッハッ、飛び道具とは卑怯なり……!

イツペイ

おまえが、矢でも鉄砲でも持つてこい云うたやんないかい……!

エコロジーンさん

ハッハッハッ、冗談の通じないヤツらだな……!

イツペイ

冗談かよ……

エコロジーンさん

ハッハッハッ、今日のところは引き上げてやる……!

嶋

絵に描いたような負け惜しみですね……

エコロジーンさん

ハッハッハッ、しかし憶えておれ、どうせ、この場所、昼間は何

もやってないに相違あるまい、昼間にこゝを占拠して、驚くほど勝手なことをやるからな……!! (去る)

嶋

いまの、どうゆう意味でしょう……??

イツペイ

さあ、なんかの宣伝くさかったけどな……

嶋 にしても、色んなヤツに狙われてるんですねえ、この街……

カゲリ あゝ……

嶋 大変じゃないですか……

イツペイ 当たり前のこと、訊いてんやないで……

カゲリ それも、そろそろお終いだな……

イツペイ え、親分、どないなわけで……？

カゲリ (嶋を見て) あんたが来ちまったからね……

嶋 ぼくが……？

イツペイ こいつが……？

嶋 ぼくが、いったい、なにをするっていうんです……？

イツペイ こいつが、いったい、なにをするいゝまんねん……？

カゲリ そうか、イツペイには云ってなかつたな……

イツペイ そうでつせ、一の子分に隠すやなんて、水くさい……

嶋 教えてください……

イツペイ コラ、一の子分を差し置いて、ヒミツが聞けると思てんのかッ……

嶋 だって、ぼくに関わることなんですからッ……

カゲリ 今となつちやあ、後先なんざ関係ない、ふたりとも、よくお聞き……

嶋・イツペイ はい……

カゲリ この街が、巨きな筒だつていうのは、聞いたぞろ……

嶋 えゝ……

カゲリ 土の中に忘れ去られた下水管、そこにいつしか、過去を棄てた人々が集まり

はじめ、そうしてそこは、街になった……そのうちだれかゝ、蓄電池のしくみを発明

して、その街は豊かになったが、それが余所者たちの眼をひきつけた……大きな戦い

が二度起こり、街は荒廃した、それでも、人々は街を立て直し、元のようなにぎわい

をとりもどした……

鳴 鳴
カゲリ それが……

カゲリ このショウワさ……

鳴 この街には、過去がない……けれども、この街が巨きな筒なら、それは過去にも通じているはずじゃないですか……

イツペイ そら、過去にも未来にも通じてるけどな……

鳴 ならば、「過去」に戻らせてください、ぼくは、そこであの家鴨という人に会わなけりやならないんです……！

イツペイ アヒル……？

鳴 そうです……

カゲリ 会ってどうする……？

鳴 ぼくのことを「闇」だと云ったのはその人なんです、だから、彼女に会えば、なぜぼくが「闇」になってしまったのか、わかるような気がして……

カゲリ 生憎だけど、この街は過去から未来に向かって傾いてる、水が高いところから低いところに流れるようにね、だからあたしたちも、過去に戻ることはできやしない……

鳴 そんな……

カゲリ この街の人間は、もう、未来に進むことでしか、生き残ることはできないのさ……

鳴 でも、攀《よ》じのぼればなんとかなるんじゃない……

カゲリ いや、駄目だ、それに、この街じたいが、もう……

イツペイ 親分……？

カゲリ そう、この街には、ひとつの運命《さだめ》がある……

鳴 運命《さだめ》とは……？

カゲリ この街は、あんたといっしょなんだよ……

嶋 ぼくと……？

カゲリ あんたの胸がガランドウなように、この街の中心もまた空虚だからさ……

嶋 それって、この街が土管だからですか……？

カゲリ アハ、たしかにそうだ、土管だから、まんなかはすつからかん……

嶋 じゃなきや……？

カゲリ そのこのシヨウワのまんなかは、だれも踏みこめない真空地帯……

嶋 ぼくと同じ、空虚な中心、ならば、そこには、「闇」が込められている……？

カゲリ いや、そこはまだ、「闇」には満たされちゃいない、けれど、やがて、「闇」

が訪れ、街は水に沈む……

イツペイ この街が……？

嶋 じゃあ、その「闇」って……？

カゲリ あゝ、あんたのことだよ……

嶋 ぼくのせいで、この街が滅びるっていうんですか……？

イツペイ おまえ、そないな危険分子やったんか……！

カゲリ 滅びるわけじゃない、水に沈むだけさ……

イツペイ せやかて、沈んでもたら、滅亡やないですか……

カゲリ 伝説だよ……

イツペイ 伝説って、あの……？

カゲリ そうさ、いつのころからかシヨウワに伝えられてきた、あの、ワタリガラス

の伝説さ……

嶋 教えてください、その伝説って、いったい……

カゲリ 宇宙のはじめ、この世に光はなく、世界は闇にとぎされていた……

嶋・イツペイ ……

カゲリ 人々は、闇のなかで、寒さに凍えながら暮らしていた。とうとうある日、人々は、天の族長のところから、光を盗むことを決め、空たかく飛ぶことのできるワタリガラスにそのことを頼んだ。ワタリガラスは、天の族長のところにゆき、箱にしまわれていた光を盗みだした。その光はたいそう熱を持っていたので、それまで真っ白だったワタリガラスの躰は、真っ黒に焦げてしまったほどだった。こうして、ついに世界に光がもたらされ、人々は闇と寒さから解き放たれた。けれどこんどは、その光の熱があちこちの氷をとかしはじめた。海水はどんどん膨れあがり、とうとう世界は洪水に呑みこまれてしまった……

嶋・イツペイ

……

カゲリ まだつゞきがある。世界はすっかり海中に水没し、生き残ったのは、ひとくみの老夫婦だけだった。かれらは、日ごろ可愛がっていた小鳥から洪水の予言を聞き、小舟を用意していたために助かったのだ。やがて、水がひき、大地が顔を出しはじめた。生き物たちは、ふたゝび世界に満ちた。しかしこんどは、光の熱で水が蒸発しはじめ、世界はからからに干上がってしまった。人々は、またワタリガラスのところにゆき、光を翼で覆い、闇をとりもどしてくれるよう頼んだ。ワタリガラスは試みたが、光の熱はすさまじく、羽根は燃え、肉も焦げてしまうほどで、さしものワタリガラスも光を覆うことはできなかつた。すると、あの老夫婦がやってきて、かつて洪水を予言した小鳥をさしだした。小鳥が「鳥の歌」を歌いはじめると、雨が降りはじめた。世界は水を取りもどし、光の熱も弱まったので、ワタリガラスは、光を翼で覆いかくすことができるようになった。けれど、世界が冷えずぎないように、一日の半分は光をさえぎらないことにした。こうして、世界に昼と夜ができた……

嶋

……

イツペイ それが、伝説……？

カゲリ あゝ、わかったかい……？

嶋 ぼくが来たことで、この街は水に沈む……

カゲリ そのとおりさ……

イッペイ でも、こいつ、光なんか持ってきてまへんで……

カゲリ いや、持ってきている……

イッペイ どこどこ……？

カゲリ さっきの伝説には、もうひとつ別の終わりかたがある……

嶋 まさか……

カゲリ ワタリガラスが光を覆い隠すと、とたんに光は白い大きな鳥になって飛びた

った。ワタリガラスはそのあとを追い、二羽はたがいを追いかけているが、世界を巡って飛びつづけた、そうして、白い鳥が飛んでいるあいだ世界は昼になり、ワタリガラスが飛んでいるあいだは夜になった……

嶋 白い鳥……

イッペイ それ、白いワタリガラスなんですか、それともハクチョウ……？

カゲリ さあな、たゞわかつているのは、その鳥が光だということだ……

イッペイ すると……？

カゲリ (項突いて) 光あふれるところに、灯火《ともしび》は無用、あたしらの商

売もご破算さ……

嶋 もしや、その光とは……

カゲリ ようやく気づいたようだね……

嶋 どこにいるんですッ……？

カゲリ ほら、そこにッ……！

ト、煌々たる光のなか、ひとりの女の影——それは家鴨だ。

嶋 家鴨さんッ……！！

家鴨 おや、また、会ったね……

カゲリ 白い鳥……

家鴨 (カゲリを見て) お嬢さんがそうなのかい、常闇《とこやみ》の戦士、影の国の女王……

イツペイ あれが……？

カゲリ あゝそうさ、イツペイ、街の人たちに知らせるんだ、総員待避……！
イツペイ 諒解ッ……！！

上下に走り去るカゲリとイツペイ。

嶋 家鴨さん、教えてください、ぼくはどうして「闇」なのか……！！

家鴨 野暮なことは云いつこなしだよ……

嶋 ならば、こいつで……！！(ト、心伝導器を取りだし、家鴨に駆けよる)
家鴨 なにか聞こえるかい……？

嶋 ……いゝや……

家鴨 他人の心が読めるなんて、そんな機械があるものか……

嶋 ですが、さつき、これを使った人が、ぼくの胸がカラッポだと……

家鴨 そりゃ、そいつがたゞのガラクタだから、なんにも聞こえやしなかったんだよ……

嶋 そんな……

家鴨 だって、人間の心のうちは、そんなもんを使わなかったってまる見えなんだか

嶋 ら……

でも、ぼくには、家鴨さんの心がわかりません……

家鴨 　ほら、メーテルリンクの『青い鳥』だよ……
嶋 　　どういうことですか……？
家鴨 　（歌う）

どこにいるのか青い鳥
想い出の国　夜の宮《みや》
隠れた扉を開いても
月の光の偽の鳥

どこへいったか青い鳥
未来の王国　幸《さち》の園
魔法の帽子をかぶっても

見えぬ我が家の黒い鳥

嶋 　　どういうことです、真実は眼の前にあるというんですか……？

家鴨 　　そうやって、あんたは棄てゝきたんだよ……

嶋 　　なにを棄てたっていうんです……？

家鴨 　　なにもかもさ、なにもかも棄てゝきて、そうしてあんたは、黒い闇になった、

嶋 　　いや、そうじゃない、あんたはあんた自身を棄てちまつたんだ……

家鴨 　　ぼくは、ぼく自身を、棄てゝきた……

嶋 　　さあ、そろそろ時間だ……

家鴨 　　待ってください……！

嶋 　　あんたは四度《よたび》あたしに会うことになる、そして、そのときこそ、

家鴨 　　あたしがだれだかわかるだろう……

嶋 　　家鴨さん……！

家鴨 　　さあ、翼をひろげるんだ、黒い鳥よ、そうして渡っておいで、七つの海、過

去と未来の街々を……！

消え去る家鴨。

ト、轟音とともに、上手から濁流が流れ込み、シヨウワの街を押し流してゆく。

幕。

幕間 ■ 霞の街角

幕が閉じると、花道から現われる富山の薬売りとおひばり。

薬売り　えー、薬、薬はいりませんか……？

おひばり　おっちゃん……

薬売り　いま、商売中だよ……

と云いつゝ、取り出した商品は、飴玉とかビールとか。商売を始める薬売り。繁盛したりしなかったり、ときに、とんでもないものも売ったりしている。

おひばり　あんなあ、おっちゃん……

薬売り　だから、忙しいんだってば……

おひばり　コンポンテキなギモンいうてえゝか……

薬売り ヨートークニクとか云う文句なら受け付けない……

ひばり べつに、「薬」いうといて「アメちゃん」売ってもかめへんけどな、こない

だは、そのへんで拾ろたケータイを「心が読める機械」とかいうて売ったし……

薬売り …… ありや、あげたんだよ……

ひばり 「心伝導器」やて、パチくさいにもほどがあるわ……

薬売り ごたごた云ってないで、商売手伝えよ……

ひばり おっちゃん、富山の薬売りやろ……

薬売り …… いかにも、越中富山の薬売りだ、ほら、幟にもちゃーんと書いてあるぞ……

ひばり …… 富山の薬売りって、お役所的には「家庭薬配置販売従事者」、早い話が置

き薬屋さんとかやうかつたん……？

薬売り …… そのとおり……

ひばり …… それがなんで、道端でとおりすがり相手に商売してんねんな……

薬売り …… なんだ、そんなことか、そんなもん、行きがけの駄賃てやつに決まってる

だろ、それに薬を売ってるんじゃないから、法律的問題≪ノー・プロブレム≫

だ……

ひばり …… 路上営業許可も得てへんくせに、なにが「ノー・プロブレム」やねん……

薬売り …… まあまあ、カタイことは云いっこなしよ、おまえも一曲幾らで歌ったらど

うだ……？

ひばり …… そない、人まえでポンポン歌えるかいな……

薬売り …… じゃあ、(ラッパを取りだし)「これでも吹くか……？

ひばり …… フェリーニの映画やないねんから……

薬売り …… やっぱ、太鼓か……？

ひばり
薬売り
ひばり
薬売り
ひばり
薬売り
ひばり
薬売り
ひばり

せやから、うちはジェルソミーナやないいうてんねん……！
いや、太鼓といやあ、仮面ライダー響鬼だろ……

あ、特撮オタクや……

いや、そういうわけじゃないけどさ……

まあ、おっちゃん自身が特撮モンみたいな存在やからなあ……

だから、テレヴィといっしょにすんじゃねえよ……

あゝ、テレヴィ出たいなあ……

人まえて歌えないやつが、テレヴィなんざ出られるわけないだろ……

(客席に向かい) ほな、ひばりちゃん、歌います……！

なんだ、そりや……

(歌う)

晴れた夜には お星さまを売りましょう

霧の晩には お月さまを売りましょう

花売り娘とダンスをおどつて

一夜かぎりの吐息の国へ

雨の夜には 暗闇を売りましょう

風の晩には 希望を売りましょう

古びたバアでお酒をのんで

あすなき身空の旅のつゞきへ

なんでえ、どうせなら、もうちつと景気はいゝ歌うたえよな……

しゃあないやろ、アーチストの心はセンサイなんやから……

どこが「アーチスト」だよ、(上をふり仰ぎ)ち、雨が降ってきやがった……

薬売り
ひばり
薬売り
ひばり
薬売り
ひばり
薬売り
ひばり

そゝくさと品物を仕舞いはじめる薬売りに、ひばりが傘を差しかける。

薬売り 似合わねえマネしやがって……

ひばり なにいうてんねん、商売モンが濡れんようにしてるだけや……

薬売り ふん、ご苦労なこった……

ひばり ふん、感謝くらいしたかて、罰《バチ》はあたらへんで……

薬売り (立ち上がると、ひばりから傘を取り、逆に差しかける) ふん、風邪ひい

たって、売りもんは使わせねえからな……

ひばり ふん、そんな鼻クソ丸めて万金丹《マンキンタン》、それを飲むやつアンポ

ンタンみたいなん、こっちから願いさげや……

薬売り ふん……！

ひばり ふん……！

云い合いながら下手に去る二人。

二人が引つ込むと同時に、幕が開く。

第2幕 ■ 靄の街角

舞台は、なにやら古びた商店街風。

正面には、またしても店舗。たゞし、こっちの方が「燈火や」よりずつと大きい。「各種薬品 平成堂」という看板を掲げている。

ところへ、店の前に集まってくる母ちゃん、婆ちゃん、嬢ちゃん。すなわち、ヘイセイの家族代表たちだ。

母子ヤン いやあ、お義母さん、こんなとこでなにしたらりますのん……？

婆子ヤン あんたこそ、こないなどこ出てきて、掃除と洗濯は済んだんかいな……？

嬢子ヤン うわあ、おかあちゃんとおばあちゃん、こないなどこで、嫁姑バトルせんとなつてえや……

母子ヤン (嬢子ヤンに) あんたもなにしてんねんな、また宿題もせんと遊びほうけてからに……

婆子ヤン まあまあ、なんちゆうたかて子供やねんから、まだ遊びたいさかりやないの……

嬢子ヤン せやせや……

母子ヤン ほら、もう、そない云うてお義母さんが甘やかすさかい、この子、ちーつとも勉強せんようになりましたんやで、(嬢子ヤンに) だいたい、あんたかて、でっかい

図体で老けた顔で、だーれも小学生やなんて思えへんねんから、少しでも小学生らしくする努力しいや、せめて宿題くらいやらんと……

婆子ヤン ほんまやなあ……

嬢子ヤン なんやの、おばあちゃんかて、えゝ歳こいて、ジャニオタやってんやないで……

母子ヤン ほんまやわ、今日かて、また、なんやグッズ買いにきたんちやいますのん……

婆子ヤン オタクに歳なんか関係ありますかいな、それに、オタやつてると、若返りま

すねんで、ひやーつ、ウツチー最高ーッ……！ (ト、内くんの顔のついた巨大団扇を取りだす)

嬢子ヤン え、おばあちゃん、ウツチーのファンやったんや……

婆子ヤン そやで、もう、超かわえゝし……

嬢チヤン　うーん、うちは亮ちゃんかなあ……（ト、錦戸くんの顔のついた巨大団扇を取りだす）

婆チヤン　なんや、あんたも関ジャニ8のファンかいな……

母チヤン　あ、あんた、またこないなムダづかいしてッ……

嬢チヤン　えゝやん、ちよっとくらい……

婆チヤン　せやせや、どうせあんたかて、なんやムダづかいしにきたんやろ……？

母チヤン　いえ、まあ、ちよっと……

嬢チヤン　じつは、おかあちゃんも、密かにジャニオタやったりして……

婆チヤン　まさか、けど、そうやとしても、ウツチーは渡されへんで……

母チヤン　もう、なんでよ、そんなわけあれへんやん、ホゝゝゝ……（と云いながら、安田くんの顔のついた巨大団扇を取りだして、口許を隠す）

婆チヤン・嬢チヤン　買ってるしッ……！！

母チヤン　やっさん、最高……

婆チヤン　いや、ウツチーやろ……

嬢チヤン　亮ちゃんやっぱ……

睨みあう三人。そのまゝじりじりと間合いをつめると、罵りあいながら、巨大団扇で殴りあい始める。当然のごとくボロボロになる団扇。殴りやめる三人。

母チヤン　あゝ、あたしのやっさんが……

婆チヤン　ウツチーが……

嬢チヤン　亮ちゃんが……

三人　ひ、ひどいッ……

再び睨みあう三人。そのまゝじりじりと間合いをつめると、今度は、団扇を棄てゝ抱き合う。

母子ヤン かんになんしてや……

婆子ヤン いや、おばあちゃんが悪いんや……

嬢子ヤン おかあちやん、おばあちやん、うちが悪かってん……

母子ヤン なんと云うたかて、あたしら「家族」やねんから……

婆子ヤン せやせや、「家族」が喧嘩なんかしたらアカン……

嬢子ヤン うん、そうやね、「家族」やもんね……

母子ヤン ほな、帰るか……

婆子ヤン (嬢子ヤンに) さあさあ、あんたも涙ふいて、お小遣いやつたらまたあげる

嬢子ヤン し……

やつたー……

嘘のように仲直りした三人、談笑しながら下手に去つてゆく。

ト、店の奥から、掃除道具を持った店員が出てくる。

店員 あー、忙し忙し、ほんとにまあ、なんだってこんななゴミが落ちてんだか、

まったく……

ぶつくさ云いながら辺りを掃除しはじめる。

店員 (店の裏を覗き込んで) あ、ドブが溢れてるよ、こりやなんか詰まつてるな、

だれか粗大ゴミでも棄てやがったんじゃないだろうな、おいおい、フホートーキしてんじゃないよ、まったく、ヤんなっちゃうねえ……

ト、ドブからなにかを引っぱりだす

店員 よつこらショのショツと、ほーら、古着だよ、しっかし汚ねえなあ、真っ黒けじゃないの、しかし重たいねえ、え、どっこいしょツと、なんだこりや、上着だけじゃなくって、上着の中に、ニ、ニンゲンツ……？

古着に引っ掛かった男が引き上げられる。もはや真っ黒でボロボロのジヤケットを着た嶋だ。

店員

おい、あんた、大丈夫か……？

嶋

(眼を開け) 家鴨さんは……？

店員

アヒルさん？ こゝにやいないなあ、小学校なら飼ってるかもしれないけど

さ……

嶋

いえ、鳥じゃなくて、人間の家鴨さんです……

店員

いや、アヒルは人間じゃないだろう……

嶋

だから、家鴨つてのは名前で……そうか、あの街は水に沈んで……

店員

どっかアタマでも打ったんじゃないだろうな……

嶋

あ、いえ……

店員

それよか、どうやったら、あんなところに挟まってられるんだ……？

嶋

すごい鉄砲水に押し流されて、気がつけば、こゝに……

店員

鉄砲水？ さあて、どっかで洪水があつたって話は聞かないけどなあ……

嶋 カゲリさんやイッペイさんは……

嶋 だれだい、そりや……？

嶋 いえ……

嶋 ところで、あんた、名前は……？

嶋 ぼくは……（愕然）

嶋 あんたは……？

嶋 駄目だ、想い出せない……

嶋 あんた、想い出せないのかい、自分の名前……？

嶋 そうなんです、他人のことは想い出せるのに、自分のことになると、とたん

嶋 に霧がかゝったようになって……（頭を抱える）

嶋 うーん、やつぱり頭打ったんじゃないかなあ……

嶋 ……（頭抱えたまゝ）

嶋 まあ、他のことは憶えてんだろ、じゃあ、そのうち想い出すさ……

嶋 はい……

嶋 それよか、どつか、怪我とかないかい？ いやね、おれ、（示し）この薬屋

嶋 の店員でね、ちよびつとくらいなら、売りもんくすねたつて構やしないからさ……

嶋 ですが……

嶋 なアに、遠慮は無用、そんなこた日常茶飯事だから……

嶋 ……

嶋 ……

嶋 ……

嶋 ……

店主 ニチジョウウサハンジい……？
店主 あ、店長……
店主 ちよつと、あんた、聞き捨てなんないわね、今のハツゲン、日頃からちよい

ちよい店の商品チヨロマカしてたんですってツ……？

店員 えーと、いや、その、まあ、あ、それより、この人この人……

店主 話そらしてんじやないわよ……！！

店員 だって、この人、ドブに詰まってたんですから……

店主 アラやだ、ドブに？ どうりで臭うわね……

嶋 すいません……

店主 あんた、この街じゃ見かけない顔ね……

嶋 え……

店員 で、こいつ、どうしましよう……？

店主 にしても臭いわ、ドブに戻しときなさい……

店員 そんなことしたら、またドブが詰まっちゃいますよ……

店主 しょうがないわね、この街は、清潔第一、シミのひとつも許さないクリーン

店員 な街がモットーなんだから、風呂に入れて、別の服を着せてやんなさい……

店主 はい、店長！ さ、早く立って、店前にゴミの塊みたいなのがあると困るん

だから……（ト、嶋を引つたて、店の奥に去る）

ところへ、下手から戻ってくる母ちゃん、婆ちゃん、嬢ちゃん。

店主 これはこれは、みなさん、いらっしやいませー、今日は、いかになさいまし

嬢ちゃん たの？ 動悸、息切れ、疝の虫……？

店主 ゴムちようだい……

嬢ちゃん まッ、ゴムッ……？

店主 うん、ゴム……

店主 ゴムって、あの、丸くなって、伸びたり縮んだりするやつよね……？

嬢子ヤン そう、ゴム……

店主 じつは、輪ゴムでしたー、なんてつままないオチはないわよね……？

嬢子ヤン ないで、ゴム……

店主 あゝ、乱れてるわ、こんな子供まで、でも、この街のモットーは、安全、清

潔、衛生、ゴムはそのために必須のアイテムだわ……

嬢子ヤン なあ、おっちゃん、早よ出してや、ゴム手袋……

店主 (ズッコケ) あゝ、ゴム手袋……

嬢子ヤン 知ってた？ ゴム手袋はめて、表面をなでるだけで、カーペットのゴミやほ

こりが簡単にとれんねんで、それに、固いビンのキャップかて、ゴム手袋はめて回し

たらラクラクやし、上に軍手をはめたら、拭き掃除にかて便利やろ、ほら、ブライ

ドのすきまとか……

店主 まったく、子供のくせに、はやばやと主婦の知恵身に着けてんじやないわよ

……ハイハイ、ゴム手袋と…… (品物を渡す)

嬢子ヤン 店長さん、アレくれへんかいな、アレ……

店主 ハイハイ、お婆ちゃんは、アレね……えーっと、なにかしら、アレって……？

嬢子ヤン アレやがな、アレ……

店主 ハイハイ、アレね……だから、わかんないのよ、アレじゃ……名前を云つて

ちようだい……

嬢子ヤン アレはアレやがな……

店主 まったく、もう、えーと、(商品を示し) 入れ歯洗浄剤……？

嬢子ヤン (否定) ……

店主 紙おむつ……？

嬢子ヤン (否定) ……

店主 酸素吸入器……？

婆チヤン (否定) ……

店主 保湿クリーム……？

婆チヤン (否定) ……

店主 殺虫剤……？

婆チヤン (否定) ……

店主 消臭剤……？

婆チヤン (否定) ……

店主 覚醒剤……？

婆チヤン それや……！

店主 売ってなーいッ……！

婆チヤン (なにやら、商品を手にとり) おゝ、これやこれや……

店主 入れ歯洗浄剤じゃないの、それ、最初に見せたでしょ、もう…… (ト、云い

つゝ、商品を渡す) ハイ、奥さんは……？

母チヤン ちよっと店長さん、聞いてえな、もう、とうとう木が家に上がってきてしも

てね……

店主 木が……？ そいつは面妖な……？

母チヤン もう、大變で大變で……

店主 でも、うちは薬屋ですからね、木のことなら園芸店か、ホームセンターへで

も……

母チヤン なに云うたはんの、お宅の管轄やろ……

店主 ともかく、いったいどんな木が……？

母チヤン ほら、スギやろ、それからヒノキ……

店主 それって、花粉症じゃないんですか……？

母チヤン あら、花粉シヨって、裸になって、花粉を塗りたくって踊ったりするやつ

とちやいますのん……？

店主　ちがいますよ、もう、奥さんたらオトボケさんなんだから、花粉症つてのは、

スギやヒノキの花粉が引き金になって発症するアレルギーの一種ですよ……

母チヤン　へえ、そうでしたんかいな、ハックシヨ……

店主　ほらほら、それ、ゼツタイ花粉症……

婆チヤン　ハックシヨ……！！

嬢チヤン　ハックシヨ……！！

店主　えーと、甜茶《てんちゃ》とか飲んでると、アレルギーを抑えることができ

たりするんですけど、取り敢えず、これね……（ト、巨大なマスクを取りだし、母チ

ヤンたちに渡す）

母チヤン　これを……？

店主　花粉を吸い込まないようにね、これをかけて……

母チヤン　あゝ、なるほど……（マスクをする）

店主　（残りのふたりにもマスクを渡す）ハイ、平成堂特製マスク、ひとつ二百円

ね……

三人　フハイイ（高い）……！！

店主　ハイ、毎度ありがと……（ト、三人からお金を徴収）

口々になにやら話しながら去る三人。でも、巨大なマスクのせいで、なにを云ってるか全然わからない。

店主　お大事に……

ところへ、奥から、店員と小綺麗になった嶋が出てくる。

店主 あらあら、まあまあ、わたしの若い頃の服が、べったり……

店員 訛ってますよ店長、びったりでしょ、びったり……

店主 そう、そのびったり……

店員 どうもすみません……

店主 いゝのよいゝのよ、この街にいる人間はね、みんな家族同然なの、だから、ほら、家族の世話を焼くのは当然のことでしょう……？

嶋 えゝ、まあ……

店主 そのうち、他の「家族」も紹介したげるわ……

嶋 はあ……

店主 で、あなた、いったいどっから来たの……？

嶋 それが、霧深い街角に立ってただけは憶えてるんですが……

店主 もしや、摩周湖……

店員 「霧の摩周湖」って、莫迦じゃねえの……

店主 なんか云った……？

店員 いえいえ、滅相もない……

嶋 いや、都会のネオン街の路地裏を彷徨っているうち、段ボール・ハウスの並ぶ場所にゆきあたって、それから下水管——

店主 (皆まで云わせず) まあ、路地裏でホームレスで下水管でドブって、あんた、

嶋 きつたないところばかり選って歩いてんのね……

店主 いえ、そういうわけじゃないんですが……

店主 ほんと、真っ黒にもなるわけだわ、でもね、さつきも云ったように、この街

店員 は、清潔・衛生・クリーンがモットーなの……

店主 まあ、じつを云やあ、この街も、その昔は、それはそれは小汚い街だったん

だが、おれらの努力によって、ピッカピカの街に変貌を遂げたってわけよ……
店主 正確に云えば、この平成堂薬局、もつと云えば、平成堂店主のこのわたしの
おかげでね……

嶋 じゃあ、店長さんは、この街の町長みたいなもんなんですか……

店主 アラやだ、蝶々だなんて、この白衣姿がモンシロチョウに見えて……？

店員 なにがモンシロチョウだよ、チャドクガの毛虫みたいな顔しやがって……

店主 なんか云った……？

店員 いえいえ、滅相もない……

嶋 いや、そのチョウチョウじゃなくて、街の世話役というか……

店主 そうなのよ、なにかつていうと、みんなわたしを頼ってくれるんだから、やつ

嶋 ぱり人徳つてやつかしらねえ……

はあ……

ト、駆けこんでくる母チャン、婆チャン、嬢チャンたち。

三人 ×＃\$※\$……（巨大マスクのせいで、なに云ってんだか、やつぱりわか
らない）

店員 まあまあ、落ち着いて落ち着いて、みなさんがた、なに云ってんだか、さつ
ぱりわかりませんよ……

三人 #×\$※\$*……

店主 仕方がないわ、こんなときは、ジェスチャーで教えてちょうだい……

ジェスチャー・ゲームで「木が家に上がりこんできた」という内容を伝
える三人。もちろん、簡単にはゆかず、四苦八苦。

店主 「木が家に上がりこんできた」って、それ、さつきも云ってたじゃありませんの、だから、それ、花粉なんですつてば……

三人 ∞×\$#※*……(否定)

店主 え？ ちがうつて？ どこがちがうの……？

ところへ下手から、ほんとうに木が二本やつてくる。

三人

※★ーッ……！(木たちを指さすと、逃げ去ってしまう)

店主

(驚愕) アラまっちゃん出ベソの宙返りッ！ なんなの、あんたたちッ……

……？

スギ

ども、スギウラです……

ヒノキ

ヒノキダニです……

店員

もしかして、スギとヒノキ……？

三人

(項突く)……

店主

ちよつと、あんたたち、なんで山から下りてくんのよ……

スギ

ハッハッハッ、最近は、山も住みにくくなりましてねえ……

ヒノキ

やれ開発や、公害や、不法投棄や云うてやな、人間どもやりたい放題やな

いか……

スギ

というわけで、まあ、一種の復讐ですねえ……

スギ・ヒノキ

ハッハッハッ……

ト、傍若無人に振る舞うスギとヒノキ。たとえば組み体操とか、でも躰が硬直しているの、なかなか苦勞している。

店主　まあ、下りてくんのはいゝとしても、勝手にひとんち上がりこんだら、犯罪
なんだからね……

ヒノキ　なにしろ、ずっと立ちっぱなしやったから、こゝらで温泉にでも浸こて命の
洗濯でもしたろやないかと……

店主　ヒノキのくせに風呂桶に入っただうすんのよ……

スギ　おや、

ヒノキ　ハッハッハッ、わしら人間とちごて樹木でっさかい……

スギ　人間の法律は適用できませんねえ……

スギ・ヒノキ　ハッハッハッ……

店主　じゃあ、チェーン・ソーでぶった切ってもお咎めなしよね……

スギ　おっと、そんなことして、たゞで済むと思っただですか……？

ヒノキ　わしらのことをナメとったらアカンで……

店主　カブトムシじゃあるまいし、樹木なんか嘗めるもんですか……

スギ　古来、スギやヒノキは、人間にとつて、たいへん重要な役にたつてきました

……

ヒノキ　「ノアの箱船」知つてまつか……？

店主　知つてるわよ、それくらい……

ヒノキ　ほな、その材料は……？

店主　え、材料、えーと、それは……

鳴　たしかイトスギでは……

店主　なによ、まさか、あんた、ノアの箱船になつたスギの末裔だとか云うんじや

スギ　ないでしょうね……

おっと、惜しいですね、聖書でイトスギと訳されてるのは、日本じゃホソイ

トスギ、またの名をセイヨウヒノキというヒノキの仲間なんですよ……

店主 それがどうしたっていうのよ……

ヒノキ つまり、わしらがおらへんだら、人類みな水浸しで絶滅しとったいうわけや

……

スギ 謂わば、われわれは命の恩人、いや、恩樹木……

店主 まあ、小癩な、(店員に) ちよつと、あんた、なんとかしなさい……

店員 こら、さつさと山に戻りやがれ、丸太ん棒野郎ども……!!

ヒノキ オラ、ごちやごちや云うとつたら、フイトンチッド浴びせんぞ……

店員にフイトンチッドを浴びせるスギとヒノキ。途端に、なぜか恍惚となる店員。

店主 なになにに、「フイトンチッド」って……? ?

嶋 テルペン類を主とする有機化合物で、いわゆる「森林浴」の成分です……

店員 あゝ、森林浴が、森林浴が……

店主 なんか、ラリっちゃってない……? ?

嶋 フイトンチッドっていうのは、元来、植物が殺菌・殺虫するために放出する

成分ですからね……

店主 じゃあ、こいつって、雑菌とか害虫レヴェルなわけ……? ?

嶋 ふつう、人体には無害どころか、有益なんですけど……

店員 あゝ…… (悶絶)

スギ さあ、こんどはあなたがたの番ですよ……

ヒノキ 恐怖の花粉攻撃じゃ……!!

店主 おっと、花粉なにするもので、こつちには平成堂特製マスクがありまさあね

ツ……………!

マスクをかける店主。その上に、容赦なく花粉を振りそぐスギとヒノキ。店主、粉まみれ。

店主
ヒノキ
☆£\$・♂・♀◎ (恐るべし、常緑針葉樹ども) …… (悶絶)
(嶋に) つぎは、おのれの番じや……………

嶋に迫るスギとヒノキ。
ト、音楽と共に颯爽と現れたのは、もちろん暁アキラとひばりだ。

嶋
あ、あなたはいつぞやの……………

薬売り
東に病気の子供あれば、行つて薬を売つてやり、中略、正義の味方、夜明けのヒーロー、暁アキラツ、朝の来ない夜はないツ……………!

ひばり
お供のひばり、見参ツ……………!
いゝ歳して、恥ずかしくないのか……………?

薬売り
ヒーローに年齢は関係ないツ……………
知り合いが見たら、なんて云うか……………

薬売り
ヒーローは孤独だツ……………
本業はちゃんとやってんのか……………?

薬売り
ヒーローは、やゝ困窮してるかもしれない……………
時給千五百円で、花粉をバラまくバイトがあんねんけど……………

薬売り
ヒーローは、寝返つたりしちやつたりして……………
(暁をどつき) コラ、おっさん、眼エ覚まさんかいツ……………!

薬売り
ハツ、危なく敵の心理攻撃に屈するところだった……………

ひばり
そない上等なもんかいな……
薬売り
ゆくぞツ……

樹木に飛びかゝる暁。しばしの死闘。店の裏手に駆け込む二本とひとり。やがて、断末魔の叫び声がし、暁がテーブルと風呂桶を持って戻ってくる。

ひばり
やったね、おっちゃん……！

薬売り
いやあ、手強いやつらでした、（嶋に杉材のテーブルと檜材の風呂桶を渡し）

嶋
ハイ、お土産……

嶋
（思わず受けとって）あ、ありがとうございます、しかし、どうしてスギや

ヒノキが……

薬売り
そりや、あなた、警鐘ってやつですよ……

嶋
警鐘……？

薬売り
これまで、人間が、無意識のうちにこなってきたことへのね……

嶋
それは……？

薬売り
この街をごらん下さい……

嶋
この街が、なにか……？

薬売り
塵ひとつ落ちてない、綺麗なもんだ……

嶋
こゝでぶったおれてる店長さんが、この街の衛生に気を配ってるんじゃない

でしようか……？

薬売り
あゝ、こいつはね、そういうヤツなんです……

嶋
お知り合いですか……？

薬売り
（「越中富山の薬売り」の幟を示し）商売敵ですよ……

嶋 なるほど……

薬売り たしかにクリーンな街だ、でも、ならば、ゴミはどこにいつちやつてるんで

しょう……

嶋 いまのが、答ですか……？

薬売り まあ、あなたもいつかは、わかる日がきます……

ト、店員も立ち直り、店主も気づく。

薬売り おう、気がついたか平成堂……

店主 (マスクを外しながら) あんた、越中富山の……！

薬売り あ、裏のノコ盤、ちよつと借りたから……

店主 こんなところで、なにやってんの……

嶋 ぼくを助けてくれたんです……

店主 ということは、もしや、スギとヒノキを……

嶋 (テーブルと風呂桶を示し) ハイ……

店主 ふん、余計なことしてくれるじゃないの、せつかく平成堂特製森林浴剤でも

搾りとつてやろうと思つてたのに……

薬売り 長居は無用つてことだな、行くぞ、ひばり……

ひばり うん……

嶋 あ、待つてください……

薬売り ……？

嶋 これ、お返しします…… (ト、心伝導器を取りだす)

薬売り あ、いや、返すにはおよびません……

嶋 全然役に立たなかつたんですよ……

ひばり
薬売り
シーツ……
そらしゃあないわ、どうせ捨ろたケータイやもん……

嶋
薬売り
たゞのゴミだったんですかッ……？
ゴミだって、リサイクルすりゃ、もういちど……

嶋
薬売り
だから、役に立たなかつたんですって……

ひばり
薬売り
じゃあ、あんたとまたあつたことへの記念品だ、とつといてくん……
体のえゝ、厄介払いやないかい……

店主
薬売り
ゴミが出ることにや、その平成堂も反対だろ……？
そりやもちろんよ、この街はクリーンがモットーですからね……
じゃ、そうゆうことで……

颯爽と去る薬売りとひばり。

嶋
店主
いや、あの、これ……しようがないな……

店主
店員
ケツ、いけ好かない野郎だわ、まったく……
でも、恰好いゝツスねえ……

店主
店員
エツ、あんなんのどこが恰好いゝのよッ……？
いや、滅相もない……

店主
嶋
（心伝導器に眼を留め）で、いったいなんなの、それ……？
他人の心のうちを読む「心伝導器」だと……

店主
店員
（嶋から受けとつて）ハッ、ひらめいたわッ……
なにがですか……？

店員
店主
いまにわかるわよ……
（嶋に）わかるか……？

嶋 さま……
店主 ほーら、来たきた……

ト、戻ってくる母チャン、婆チャン、嬢チャンたち。

三人 ×#\$※\$……

店主 ハイハイハイ、みなさん、みなさんの仰有りたいこと、この平成堂店主、よーつくわかりますよ、巨大なマスクでことばが喋れない、相手がなに云ってつかわかない、ハイハイハイ、そうでしょうそうでしょう、そんなあなたに、不肖平成堂、ちゃーんと役立つものを作らせていただきます……！

三人 #×\$※\$*……！

店主 「心を伝える器」と書いて、「心伝導器〈しんでんどうき〉」……！

三人 ☆£\$\$.⋮.♀◎……！

店主 あのひと最近冷たいわ、彼女がどうも浮気してるんじゃないやなろうか、隣のメトロン星人がなに云ってるかわかんない、とお悩みのあなた、これさえあれば、他人さまの心のうちがすっぱんぼん……！

三人 ×#\$※\$*……！

店主 さあ、いまなら、新発売大特価ツ、一万九千八百円でご奉仕よツ……！

三人 #×\$※\$*……！

心伝導器にむらがる三人。

店主 (お札を掲げながら) 毎度ありーツ……
三人 ☆£\$\$.⋮.♀◎……！

三人、心伝導器を奪いあいながら去る。

店員 あれって、ほんとに使えるんですか……？

店主 知るもんですか、そんなこと……

店員 うわあ、阿漕《あこぎ》イ……

店主 商人《あきんど》と云ってちようだいッ……

店員 でも、すぐバレちゃいますよ、インチキだって……

店主 なーに、大丈夫だってば、この街の人たちはね、新しいもの好きなうえに飽き

嶋 つばいの、あんなオモチャなんて、どうせすぐ忘れちゃうわよ……

嶋 どうかした……？

店主 いえ、なにも……

嶋 なにしろ、この街は、過去を振り返らないっていうのも、モットーなんだか

ら……

嶋 でも、店長さん……

店主 なによ……

嶋 さっきの心伝導器の売り文句、富山の薬売りさんと瓜二つでしたよ……

店主 まッ、そんなの偶然よ偶然ッ、わたしとあいつは不倶戴天の敵なんですから

ねッ……

店員 あのう、店長……

店主 なに……？

店員 こいつのことなんですけどね……

店主 あゝ、こいつね……えーと、名前は……？

嶋　それが……

店員　そいつがじつは、どうやら頭打つたらしくって、どうゆうわけだか、自分の

嶋　ことだけ想い出せないってんですよ……

店員　あらま、珍しい健忘症ねえ、ほんとなの……？

嶋　はい、なぜか、自分のことになると、黒い霧がかゝったみたいになって……

店員　で、この名無しの権兵衛なんですけどね、最近、うちの店も繁盛に繁盛を重

ねてますし、おれもちよつと助手でもほしいかなあって気分になってまして……

店主　は、あん、バイトにでもして、こき使おうって魂胆ね……

店員　ご慧眼おそれいます……

店主　でも、わたしの見たところ、この人、あんたなんかの数倍は仕事できそうよ

店員　……
え、そんなあ……

店主　よし、決めたわ、あなた、どうせ自分がどこのだれだかわかんないんでしょ、

嶋　自分を想い出すまで、うちでバイトなさい……

嶋　と云われましても……

店主　ハイ、決まりツ、でも、そうなると名前がないのはなにかと不便よねえ、あ、

あなた、「中野」って名前はどうか……？

嶋　中野、ですか……

店主　そう、（四方を指さして）東の西の南の北の、そして中野……

店員　意味わかりませんよ……

店主　なに云ってんの、この店はね、この街の中心、ど真ん中に建ってるの、だか

ら、「中野」……

店員　はあ……

店主　じゃ、あなた、今日から「中野」ね……

嶋 はい……
店主 店のことは、(店員を指し) こいつに教わってちようだい……
店員 なんでも訊いてくれたまえ……(嶋と握手)

ところへ、押し寄せてくる、母チャン、婆チャン、嬢チャン。

店主 あら、また……

嶋 ほら、やっぱバレたんじや、たゞの携帯だつて……

母チャン (マスクを下におろし) 店長さん……!

店主 は、はいッ……

母チャン (心伝導器を示し) えゝですわあ、これ……

店主 あ、あゝ、でしよでしよ……

婆チャン (マスクをおろし) いや、ほんまに、人の心のうちが読めまんねんなあ……

店主 え、あ、あゝ、でしよでしよ……

嬢チャン 店長さんのも読んだるわ……(ト、母チャンから、心伝導器をとつて、店主の胸に当てる)

店主 ヒッ……

嶋 ほんとに読めるんですか……?

店員 で、なんて……??

嬢チャン 「お嬢さん、今日もベッピンさんですね」やて、キャー……(照れて、店主を力の限りぶん殴る)

店主 あうッ……

嶋 (店主を助けおこし) ほんとに、そんなふう……?

店主 まさか……

店員 じゃ、あれは……

嶋 自分の希望したことばを妄想してるわけですか……

店主 よし、わかったわ、(店員に) あんた、店の奥から古い携帯ぜんぶ持ってらっしゃい……!

店員 え……?

店主 「平成堂特製心伝導器」に決まってるでしょ、キャンペーン張らないでどうすんのよッ……

店員 は、はい…… (店の奥に飛びこんでゆく)

嶋 店長さん……

店主 ほら、ぼやぼやしてないで、あなたも今日から、この店の従業員にして、この街の一員、街の人たちと仲良くなんなさいッ……

嶋 は、はあ……

店主 (嶋を押しだし) みなさーん、今日からこの平成堂の店員、すなわち、このへいセイの街の住人になりました中野くんです……!

嶋 どうも、中野です……

店主 (母ちゃんたちを示し) こちらが、へいセイのお母さん代表、お祖母ちゃん代表、お嬢ちゃん代表の方々よ……

嬢ちゃん うわあ、男前やん……

婆ちゃん ウッチーのほうが男前や……!

嶋 「代表」っていうのは……?

店主 この街はね、クリーンとくもに、アット・ホームもモットーにしてるの、だから、この街の人たちは、みーんな「家族」になってもらってるのよ……

母ちゃん 中野はん、あんたもこの街の住人になったんやから、わたしのことを「お母さん」と思てちようだいね……

婆子ヤン わたしのことは「お祖母ちゃん」と……

嬢子ヤン うちのことは「子供」やと、けど、いつまでもコドモやなんて思てたら、大
まちがいやで……（ト、ウインク）

嶋 「お父さん」代表のかたがいらっしやいませんね……？

母子ヤン そりやあ、もちろん……

婆子ヤン この街の大黒柱……

嬢子ヤン 店長さんやがな……

店主 ほゞゞゞゞ、柄じゃないのはよつくわかってるんだけどね、みなさんが、ど

うしてもつて、仰有るもんですから……

母子ヤン なんというたかて、このヘイセイは、平成堂さんあつてこそやからね……

婆子ヤン わたしらが、心おきなく嫁姑戦争でけるのも……

嬢子ヤン うちが、出会い系にハマれるのも……

母子ヤン みんな、「お父さん」がいればこそ……！

店主 かつて、この街は、そこかしこに暗闇の広がる薄汚れた街でした、けれど、

その暗黒の時代は去ったのです、街は近代的でクリーンかつ安全な姿に生まれ変わ
りました……！！

三人 （拍手）……

店主 いまや、闇は払拭され、清潔な白一色の世界、不肖わたくし平成堂薬局店主、

この街を守り、ますますの発展のために、努力を惜しまないものであります……！！

三人 （拍手）……

嬢子ヤン そうや、中野さんも「家族」にはいったんやったら、なんかの「代表」やつ

てもろたら……

母子ヤン あゝ、そうやねえ……

婆子ヤン ウツチーほどやないけど、まあ男前やから、わたしの相方で、「お祖父ちゃ

ん代表」つていうんはどないやる……？

母子ヤン お義母さん、歳を考えなはれ、歳を……

嬢子ヤン そうやそうや……

母子ヤン 釣り合いからいうたら、やつぱり、わたしが妥当やと思うで……

嬢子ヤン おかあちゃんの相方にしたら、おとうちゃんがもうひとり増えてまうやんか

……

母子ヤン え、やないの、お父ちゃんくらい何人おったかて……

店主 うーん、それはまだ近代的家族にはふさわしくないわねえ、そうだ、やつぱ

り、わたしの「息子」つてことでどうかしら……

嶋 店長さんの、ですか……？

嬢子ヤン ほら、やつぱり、うちの相方つてことやで、中野クン、よろしくねん（ウイ

ンク）……

母子ヤン コラ、ガキのくせに色気づいてんやないで、まったく……！

婆子ヤン 相方やのうて、たんなる兄貴やがな……

嬢子ヤン なーんや、あ、でも、最近は、妹萌えくの男かて多いていうし、（嶋に）な、

おにいちゃん（ウインク）……

母子ヤン アホ、現実の世界にそんなんあるわけないやる、くだらん情報ばつか仕入れ

てへんで、ちゃんと勉強しツ……

嬢子ヤン ひどーい……

婆子ヤン まあまあ、おばあちゃんが小遣いやるさかい……

嬢子ヤン わーい……

奥からガラクタ抱えて戻ってくる店員。

店員 店長、こんだけしかありませんでしたよ……

店主 というわけで、今日からあなたは、わたしの息子にして、この街の息子代表
ってわけ……

嶋 は、はあ……

店員 え、こいつが息子代表なんですか……

店主 そうよ、家族代表会議で決まったのよ……

店員 じゃあ、この店も……

店主 ゆくゆくは継いでもらわなくっちゃね……

嶋 え、そんなことまで……

店主 拒否するんなら、入院費と看護料と薬代を実費で支払ってもらいますからね

……

嶋 すいません、いま、持ち合わせがないもんで……

店員 でも、いゝんですか、こんな、どこの馬の骨ともわかんない野郎を跡継ぎに

しちゃって……

店主 まだわかってないようね、だからいゝんじゃないの、過去なんていう闇の部

分を最初から持っていないんですもの、理想的なへいせいの人じゃない……

嶋 過去は、闇なんですか……

店主 あら、決まってるでしょ、だからこそ、人間は、過去を忘却の河にどんどん

棄ててゆくんじゃない、ちようど、ゴミを廃棄するようにね……

……

店員 ……

店主 さあさあ、みなさん、これぞ、新発売、心の闇を一掃する文明の利器、これ

さえあれば、他人さまの心のうちがすっぽんぽん、平成堂特製「心伝導器」ですよ、

へいせいの街にどんどん広めましょう、いまなら、大特価、二万九千八百円でご奉仕

よ……！

嶋 さつきより一万円あがってますよ……

店主 いゝのよ、売れるんだから、あんたも跡継ぎだったら、商売つてものを学ば

なきやダメよ……

嶋 はあ……

店主 ほらほら、準備々々……！

店員が、心伝導器キャンペーンの幟を持ってくる。

やにわに、母チャン、婆チャン、嬢チャンがキャン・ギャルに変身。そこへ、新たに三人のキャン・ギャルも加わる。それはよく見ると、ひばり、カゲリ、家鴨だが、嶋は気がつかない。

店主 さあ、キャンペーン・ガールのみなさーん、がんばってちようだいね……！
キャン・ギャルズ ハイイ……！（歌いだす）

クリーン、クリーンな世のなか

心もクリーンにいたしましょう

さわやか吐息に消臭スプレー

空気もクリーンにいたしましょう

道路も心もぴっぴか

あちこちクリーンにいたしましょう

ゴキブリ、カラスにさようなら

毎日クリーンにいたしましょう

心の闇をあらいおとし

すつきりクリアにいたしましょう

平成堂の心伝導器
いまなら発売大特価
三万九千八百円

嶋　　また値上げしてるじゃん……

店主は、嶋と店員を促して、心伝導器をどんどん補充させる。
パケット代は定額制とか云いながら、キャンペーンは、客席にも展開さ
れる。大盛況の平成堂。

店員　なあ、中野……

嶋　　はい……

店員　おまえ、この店、継ぐつもりか……

嶋　　そんな、まさか……

店員　じゃあ、どうして、「息子」になった……

嶋　　それは、店長さんが強引に……

店員　いや、それは、おまえにも惹かれる点があったからだ……

嶋　　そんな莫迦な……

店員　おまえには缺けてる部分がある、それを「家族」の一員になることで埋めよ
うとしてるのさ……

嶋　　……

店員　自分の名前を忘れちゃったおまえの中身はからっぽなんだ、だから、そこを
埋めるものを求めて……

嶋　　ちがうッ、たしかにぼくの中身はからっぽだ、けれど、そこには――

店主 ……！
こら、そのふたり、雑談なんかしてる場合じゃないでしょ、ハイ仕事々々

店員 ……
店長……

店主 ……
なによ……

店員 ……
おれは、どうして跡継ぎになれなかつたんですかね……

店主 ……
この街の跡継ぎには、資格が必要なのよ……

店員 ……
資格……？

店主 ……
そう、心のうちに「闇」を抱えている者だけが、この街の長《おさ》になれ

店員 ……
る……

店主 ……
まさか……

店員 ……
あんたはね、跡継ぎになりたい、成り上がりたいて心のうちが見えみえな

店主 ……
んだから……

店員 ……
え……

店主 ……
一点の曇りもない心の中、それはヘイセイの市民としてはふさわしいけど、

この店は継げないのよ、なぜなら、この街から闇を拭い去ろうとする不屈の気力は、

自分のうちの「闇」を消し去りたいという欲求から生まれるんですもの……

店員 ……
店長……

店主 ……
わかつたでしょ、なら、分相応に働くコトね……

店員 ……
わかりました、心に「闇」を持ってばいゝんですね……

店主 ……
店の奥に引っ込む店員。

店主 ……
だから、あんたは持てないんだってば、もう、ちつともわかつてないんだか

ら、
(嶋に) ねえ……

嶋 店長さん……

店主 ほらほら、そのキャン・ギャルちゃん、ぼーっと突っ立ってないで、仕事々々……

ト、そのキャン・ギャルが、刀を抜いて、店主の前に立つ。

店主 ちよ、ちよっとなんの真似よ……

嶋 カゲリさん、無事だったんですね……！

カゲリ (嶋に) ちよっと離れてくれるかい、すこし危ないことしなきゃなんないんでね……

店主 カゲリ……？ あんたが、あの、ショウワの燈火屋《ともしびや》……

カゲリ あゝ、残念ながら、ショウワの街は水に沈んじまったけど……

店主 それで、いまじゃ流浪の民ってわけね、富山の薬売りと云い、あんたゝちと

云い、ほんとは根無し草ってロクなやつらじゃないわ、で、なんの用なの……

カゲリ まあ、その節は、ずいぶんお世話になったからね、ちよっとお礼でもしようかと……

嶋 カゲリさん、じゃあ、地上《うえ》の連中ってというのは……

カゲリ そう、こいつがその親玉さ……

嶋 どうして……

店主 わたしの性分を知ってるでしよ、暗い、汚いが大っキライなの、下水管で闇

たゞけで怖気《おぞけ》がくるわ、あゝやだやだ……

カゲリ そっちこそ、すべての闇を追放するとかいって、ずいぶんあくどいことをや

ってくれたじゃないか……

店主 構造改革ってやつじゃない、どこが悪いってのよ……

カゲリ ふん、相変わらず口のへらない野郎だね、おい、イッペイ……

イッペイ (陰から現われ) へい……

カゲリ そのキャン・ギャルのみなさんを……

イッペイ さ、お嬢さん方、ちよつと危ないですからね、こちらへこちらへ…… (キヤ

ン・ギャル相手に、顔がにやけてしまう)

カゲリ (店主に肉薄) さあ、覚悟しな……

店主 ほゝ、いまさらわたしを殺したって、無駄なのにねえ……

カゲリ どうしてさ……

店主 だって、この店には、もう跡継ぎがいるんですもの……

カゲリ なんだと……？

店主 (嶋を、自分の前にだし) さつき決まったの、彼がそうよ……

カゲリ まさか、そんな……

嶋 すいません、カゲリさん……

カゲリ さすがは平成堂店主だな……

店主 あら、ありがと……

カゲリ (嶋に) 退いてな……

店主 あら、彼はわたしの息子なのよ、親が殺されるのを黙って見てると思うの……

カゲリ うるさいッ……

店主 だから、あんたは甘いのよ……ウツ…… (崩れ落ちる)

嶋・カゲリ ……!

店主 (店主から刀を抜きながら) どうやら、甘いのはあんたのほうだったな……

イッペイ おまえ……

店員 (嶋に) 残念だったな、跡を継げなくて、いまから店長は、このおれだ……カゲリ (たおれている店主に) おい、平成堂、どうやらあんたの街も、闇を消そうとするあまり、ちよいと無理を重ねすぎたみたいだな、結局こんな闇を生みだしちまった……

店員 この街のモットーは、これからおれが守る、だから闇を排除するのも、このおれだ……

カゲリに斬りかゝる店員。応戦するカゲリ。
戦闘に巻き込まれて、逃げ回る一同。

嶋 待ってくれ、なにも殺さなくても……!
店員 闇を排除するのも、このおれだと云ったはずだ、そうか、おまえ、心に闇を抱えてるんだったな、ならばまず、おまえから処分してやる……!

カゲリとイッペイをかわして、嶋に襲いかゝる店員。咄嗟《とっさ》に、キャン・ギヤルのひとりが身を挺して嶋をかばい、斬られる。キャン・ギヤルたちの悲鳴。斬られたキャン・ギヤルの衣裳が脱げると、それは家鴨だ。

嶋 家鴨さんッ……!
家鴨 やつと気づいてくれたね……

その間に、ついにカゲリが店員をたおす。

家鴨 家鴨

家鴨さん、しっかりしてくださいッ……

またあつたね……

ぼくは、家鴨さんを探して、だから……

まだまださ……

まだ心のうちをひらいてはもらえないんですか……

あなたのあの機械だつて無理な相談さ……

もしかして、家鴨さんも、ぼくとおんなじなんですか……

いゝや、あたしは、あなたとは正反対さ……

正反対……？

さあ、もうあたしは行っちゃまうよ……

家鴨さん……！

そのまえに、ひとつ歌をうたつておくれ……

歌ですか……？

あゝそうさ……

なぜでしょう、こうしていると、昔、だれかゝから歌を教わったときのこと
を思い出します……

そんなことがあつたかい……

わかりません……なにしろ、いまや、ぼくには、過去がないのですから……

それじゃ、やっぱり、まだまだだね……

けれど、いつたい、どうすれば……？

そのうちわかるさ、さあ、歌つておくれ……

なんの歌をです……？

あなたの歌をさ……

そう、かつて、ぼくは歌を教わった気がする……だが、それはどんな歌だつ

たのか……

キャン・ギヤルズ そう、かつて、あなたは歌を教わったのだ……

嶋 教えてください、その歌を……

キャン・ギヤルズ 口を開け、そして音をこぼれさせろ、それがあなたの歌を導く……

嶋 ……
(歌いだす)

風が種をまき

夜が花ひらく

あまい寝息で

あなたは眠る

何万年も

何億年も

時はめぐり

夢はつゞき

星はながれ

鳥はうたい

闇はひかり

光はふるえ

忘れられていた

想いがうごきだす

その日まで

家鴨 そうだよ、それが、あたしの歌さ…… (項垂れる)

嶋 家鴨さんッ……!

幕。

幕間 ■ 夕べの街角

幕前にひとり残ったひばり。そこへ薬売りがやってくる。

薬売り

ひばり

薬売り

どこ行つてたんだ……？

ちよつとね……

へいせいだろ……？

うん……

まだなのか……？

まだや……

勿体つけやがつて……

しやあないやん……

じゃ、行くか……

もう、夜やなあ……

あゝ、夜だ……

おっちゃん……

なんだ……？

手エつなご……

どうした、急に……

だつて、うち、鳥目やし……

しょうがねえな……（手をつなぐ）

ひばり (つないだ手を振りながら) 夕焼け小焼け、カラスが鳴くからかーえろ……
薬売り ヘッ、カラスなんざ鳴いちやいねえぜ……
ひばり ヘッ、帰るとこかてあれへんわ……
薬売り・ひばり (互いに顔を見合わせて) ヘッ……

仲良く去るふたり。

第3幕 ■ 雨の街角

幕が開くと、そこはやはり平成堂。
下手から、家族代表たちがやってくる。

婆チヤン 店長はーん……
母チヤン また、花粉症がひどなってきましたで……
嬢チヤン うちは、昨日、久しぶりにゴキブリ見てしもてん、はよ、なんとかせな……
婆チヤン 店長はんてば……

奥から、店長となった嶋が出てくる。

嶋 三人 ハイハイハイハイ、みなさん、こんにちは……
三人 こんにちは……

嶋 あゝ、花粉症ですか、今年は例年よりひどいようですからねえ、また、スギ
やヒノキが家に上がりこんでくるかもしれないねえ……

嬢子ヤン そしたら、また切り刻んで、こんどは箱船にでもしてしまつたらえゝねん……

嶋 (微笑みながら) 箱船ですか……

嬢子ヤン そんなで、この世が洪水になつたら、うちとふたりきりで船出すんねん……

母子ヤン また、アホなこと云うて、店長さんは、あんたのお兄ちゃんやねんで……

嬢子ヤン 世界の洪水伝説のほとんどはな、兄と妹が生き残つて、それで妹萌えくのお

にいちやんが妹とヤつてしてもて、そこから人類が復活するストーリーやねんで……

母子ヤン もう、このマセガキがッ……

嶋 まあまあ、たしかに、イザナギとイザナミも兄妹ですし、彼女の云うことは正しいですが……

母子ヤン ほな、店長さん、キンシンソーカンに走るつもりでつか、くわえてロリコン

いうことになって、インセスト(近親相姦)でペドフィリア(幼児性愛) っちゅう、

二重のタブーを犯すことになりまっせ……

嶋 まあまあ、だから、そんなのには走りませんから……

婆子ヤン だいたい、店長さんがインセストでペドなわけあれへんやろ、この店長さん

は、れっきとした人形性愛者なんやから……

母・嬢 人形性愛者……!!

母子ヤン なんや、さらにイカダワシイやん……

婆子ヤン ほら、店長はん、例のお人形はん、元気にしてはりまっか……? ?

嶋 はい、元気ですとも、なあ、アヒル……

店の奥から、一体の自動人形が歩みでる。それは家鴨にそっくりだ。

アヒル 店長サン、コンニチハ……

嶋 街のみなさんにも、ご挨拶を……

アヒル 街ノミナサン、コンニチハ……

母チヤン いやあ、いつ見ても、ようでけたある……

嬢チヤン もう、なんで、こんなん作らはったんやろ、まるで現代のピグマリオンやわ、

うちなんか、永遠に勝たれへん……

婆チヤン まあまあ、あんたがもつと大きゆうなつたら、色気で勝てるかもしれへんけ

どな、それまでせいぜい女を磨いとき……

嶋 わたしは、彼女がいるかぎり、平穩に暮らせるんです……

母チヤン けど、店長さん、あんた、この街の相談役なんやから、お人形遊びもほどほ

どにしとかんと、街の人たちの信用を失のてしまわはりませ……

婆チヤン せやせや、店長はん、氣イつけなはれ……

嶋 あゝ、わかつてますよ、ハイ、みなさん、花粉症グッズをお求めでしたよね、

花粉症にはこれ、平成堂特製マスク2《ツ》です……

三人に巨大なマスクを掛ける嶋。三人は無言になると同時に表情も消え、
静かに去る。

嶋 (アヒルに) さあ、うるさい人たちは黙らせたよ、莫迦な人たちだね、おま

えは人形なんかじゃないのに…… (椅子に坐わる) さあ、歌っておくれ、いつものよ

うに、彼女が歌ってくれなかった、ぼくの歌を……

アヒル (歌う)

風が種をまき

夜が花ひらく

あまい寢息で

あなたは眠る

何万年も

何億年も

時はめぐり

夢はつゞき

星はながれ

鳥はうたい

闇はひかり

光はふるえ

忘れられていた

想いがうごきだす

嶋

(聞き入り)そう、こうしていると、眼の前によみがえる、あの頃のこと

ぼくと彼女が暮らしていた時代、いつも彼女が歌ってくれた子守歌……(ハツとして)

いや待て、そんなはずはない、ぼくと彼女は暮らしてなんかいない、それは彼女の記

憶のはずだ、ならば、ぼくの記憶は……? (頭を抱え)駄目だ、やはり思い出せな

い、ぼくは、いつたい、だれなんだ……?

アヒル

(嶋を抱きしめ)アナタハ、ドウシテ、アタシヲツクッタノデスカ……?

アヒル

それは、彼女を忘れないため……?

嶋

彼女は、家鴨……?

アヒル

なぜ、家鴨ヲ忘レテハイケナイノデスカ……?

アヒル

それは……なぜだろう……?
ソウヤツテ、アナタハイツモ、肝腎ナコトカラ眼ヲソラシ、忘レテキタンジ

ヤナイカ……

嶋 アヒル……？

嶋 アヒル 真ッ黒ナ闇、黒い鳥ヨ……

嶋 おまえは……

人形、さつと家鴨になる。

嶋 家鴨さん……

嶋 家鴨 どうして人形なんか作ったんだい……

嶋 家鴨 それは、家鴨さん、あなたがてつきり死んだものと……

嶋 家鴨 過去を忘れないようにしようとして、過去をガラスケースに封じ込めたって

嶋 家鴨 無駄なことさ、だつて、過去は生きものなんだから……

嶋 家鴨 どういうことですか……？

嶋 家鴨 日々はものすごい速度ですぎてゆく、めまぐるしい日常は人の眼に覆いをか

嶋 家鴨 ける、姉と弟の四畳半、併合された街の名前、集積所にあつめられたゴミ袋、すべて

嶋 家鴨 はたちどころに忘れ去られてゆく、けれどもそれらは、死んだもんじゃなく、いまも

嶋 家鴨 生きて、あなたの心の中にある、たゞ、あなたが見ようとしなだけさ……

嶋 家鴨 そんな……

嶋 家鴨 ほら、幾たび出会っても、あたしのことを想い出せないのが、なによりの証

嶋 家鴨 拠じゃないか……

嶋 家鴨 家鴨さん、あなたは、やっぱり、ぼくの過去に関係があるんですね……

嶋 家鴨 さあ、みつつ教えてやろう、黒い鳥、あなたの居場所は、こゝじゃない……

嶋 家鴨 待ってください、家鴨さん……！

嶋 家鴨 ひと……

嶋 家鴨
嶋 家鴨
嶋 家鴨

どうすれば……
ふたーつ……
ぼくには、まだ……
みつつ……
家鴨さん……！

嶋、急速に暗闇が取り巻かれてゆく。
暗転。

終幕 ■ 闇の街角

明るむと、そこは狭い病室。
ベッドの上に嶋が横たわっている。傍らで、医者と女性看護師がなにやら話している。医者は薬売りに、看護師はひばりにそっくりだ。
やがて、嶋が気づく。

嶋 医者
嶋 医者
嶋 医者
嶋 医者

こゝは……？
救急病院です、ひどく痛むところはありませんか……？
はい、大丈夫です……
急にお倒れになったそうですよ……
そうでしたか……
ホームレスの方が、連絡してくださったとか……
ホームレスの人が……

医者　まあ、お酒はほどほどにね……

嶋　すいません……そうだ、想い出してきた、あの日、別れた女房のことで友人たちと口論になったぼくは、なにもかもが鬱陶しくなり、居酒屋でした、か酔っぱらったあげく、どこか公園に迷い込んだんだ……

医者　想い出されましたか、嶋さん……

嶋　そうだ、ぼくの名前は嶋……

医者　お友だちがお見えですよ……

嶋　友だち……？

ぞろぞろと、段ボール被った連中がはいってくる。

段ボール1　ぼっかりあいた胸のうち

段ボール2　過去をどれほど止《とど》めても

段ボール3　見ようとせずに見えはせぬ

段ボール4　光ばかりを求めても

段ボール5　闇の消え去ることはない

嶋　なんなんだ、あんたたちは……

段ボールたち　どうして「鳥の歌」を恐れるんだい……

嶋　「鳥の歌」、どこかで聞いたことが……

看護師　お忘れですか……

医者　小鳥が「鳥の歌」を歌いはじめると、雨が降りはじめた。世界は水を取りもどし、光の熱も弱まったので、ワタリガラスは、光を翼で覆いかくすことができるようになった。ワタリガラスが光を覆い隠すと、とたんに光は白い大きな鳥になって飛びたつた。ワタリガラスはそのあとを追い、二羽はたがいを追いかけてながら、世界を

巡って飛びつづけた、そうして、白い鳥が飛んでいるあいだ世界は昼になり、ワタリガラスが飛んでいるあいだは夜になった……

嶋 それは、シヨウワの街の……

医者 そう、伝説です、そして、シヨウワの街は、そのとおり、水に沈んだ……

嶋 待ってください、こゝはどこですか、そして、今はいつたい……？

医者 こゝはまだ、ヘイセイですよ……

途端に病室の壁が飛び去ると、そこは平成堂薬局の前。
いつしか医者 は白衣を脱いで富山の薬売りに、看護師はひばりの姿に戻っている。

ひばり 嶋さん、うたいましょう、「鳥の歌」……

嶋 それじゃ、あなたは……

ひばり (歌う)

この大空は彼のもの

翼はるかなる黒い鳥

闇と光をたずさえて

はてなき地平をこえてゆけ

あの大海は彼女のもの

風きりさける白い鳥

かなたにとゞくまなざしよ

くちびるに希望をおいてゆけ

ト、降り出す雨。

現われるカゲリとイツペイ。

カゲリ 世界は水をとりのもどした……！

イツペイ 行け、黒い鳥……！！

嶋 そうだ、ぼくは黒い鳥、それはたんなる闇の化身じゃない、光を受けて輝く

闇《かげ》だ……！！

薬売り 飛べ黒い鳥、夜と昼の出会いとところ、その大海原を越えてゆけ……！！

途端に動き出すベッド。

平成堂が左右に割れ、その向こうに大海原が広がる。

ト、水しぶきが吹き上がる。その中を、ベッドに仁王立ちの嶋が進む。

上方、見上げると、大きな白い鳥が舞う。家鴨だ。

家鴨 やつと来たね黒い鳥、七つの海、過去と未来の街々を越えて、もどってきた

のさ黒い鳥、さあ、こゝから世界を始めよう……！！

嶋と家鴨、彼方まで飛び去ることく……。

幕。

【参考文献】

アードス、R&オルテイス、A（一九八四）『アメリカ先住民の神話伝説』上・下〔松浦・西脇・岡崎・

他〕青土社、一九九七

井村君江（一九八三）『ケルトの神話』世界の神話9、筑摩書房

フレイザー、J・G（一九三〇）『火の起源の神話』
〔青江舜二郎〕、角川文庫、一九七一